資料１

暫定版

区自治協議会（第９期）を振り返って
～成果と課題～

区自治協議会会長会議

令和７年３月18日

はじめに

区自治協議会は、平成 19 年の政令市移行に伴う区制施行に合わせ設置されて以来、「協働の要」として、多種多様な地域課題の解決に向けた取組を重ねてきました。

本資料は、第９期の各区自治協議会が、どのような地域課題に対して、どのように考え、取組を展開してきたのか、またその取組内容・成果・課題などについて記録し次期委員へと引継ぐことを目的に作成したものです。

各地域の特性や実情に応じて工夫を凝らしながら実施した取組が記録されていますので、自らの区はもちろん、他区の取組についてもご一読いただき、今後の活動の一助にしていただきたいと思います。

また、巻末には、令和６年能登半島地震を踏まえ、地震に関する各テーマで実施した意見交換の概要をまとめた「令和６年度　新潟市区自治協議会　全体委員研修会の記録」と、災害初期対応の検証を目的に実施した「地域広聴会における主な意見・要望」を掲載しましたので、こちらも今後の活動の参考としていただきたいと思います。

結びとなりますが、区自治協議会委員として、住民自治の推進にご尽力いただいた今期 250 余名の委員の皆さまに、会長会議を代表して感謝を申し上げます。

区自治協議会会長会議

座長　大谷　一男

目次

北区自治協議会

北区自治協議会（第９期）を振り返って・・・・・・・・・・　１

令和５年度北区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・・　４

令和６年度北区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・・　７

東区自治協議会

東区自治協議会（第９期）を振り返って・・・・・・・・・・　８

令和５年度東区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・・１２

令和６年度東区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・・１５

中央区自治協議会

中央区自治協議会（第９期）を振り返って・・・・・・・・・１６

令和５年度中央区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・２１

令和６年度中央区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・２５

江南区自治協議会

江南区自治協議会（第９期）を振り返って・・・・・・・・・２６

令和５年度江南区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・３０

令和６年度江南区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・３４

秋葉区自治協議会

秋葉区自治協議会（第９期）を振り返って・・・・・・・・・３５

令和５年度秋葉区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・４０

令和６年度秋葉区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・５２

南区自治協議会

南区自治協議会（第９期）を振り返って・・・・・・・・・・・ ５３

令和５年度南区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・・ ５７

令和６年度南区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・・ ６１

西区自治協議会

西区自治協議会（第９期）を振り返って・・・・・・・・・・・ ６２

令和５年度西区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・・ ６６

令和６年度西区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・・ ７１

西蒲区自治協議会

西蒲区自治協議会（第９期）を振り返って・・・・・・・・・・ ７２

令和５年度西蒲区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・ ７６

令和６年度西蒲区自治協議会提案事業　事業評価書・・・・・ ７９

区自治協議会（第９期）を振り返って

～令和６年能登半島地震を踏まえた防災意識の向上～・・・・・ ８０

巻末資料１

令和６年度新潟市区自治協議会全体委員研修会の記録・・・・ ８１

巻末資料２

地域広聴会における主な意見・要望について・・・・・・・・・ ９６

北区自治協議会（第９期）を振り返って

北区自治協議会会長　前田　義憲

1　はじめに

令和５年度からの第９期区自治協議会は、委員定数 30 名中、新メンバー16 名でのスタートとなりました。

今期は、第８期で策定された「北区区ビジョンまちづくり計画」施行の年となり、新たな北区の将来像を掲げ、北区のまちづくりに取り組んできました。

今期より区自治協議会提案事業は、１年目を調査・研究の年、２年目で事業実施という手法としました。令和５年度は、各部会で所管分野の地域課題などを調査・研究し、その調査・研究で得た見識をもとに、提案事業の内容を検討したことで、令和６年度に実施した事業内容が充実したものになったと考えています。

また、令和６年元日には、能登半島地震が発生し、災害に対する備えや、地域コミュニティの重要性を改めて感じました。区自治協議会では、全体委員研修会や市危機管理防災局主催の広聴会において、意見交換や課題の検討を行い、様々な課題を認識する機会となりました。

それでは、第 10 期委員の区自治協議会活動の参考としていただきたく、第９期２年間の活動成果や課題などについて報告します。

2　取組内容・成果・課題

(1)　全体会について

ア　会議運営

新型コロナウイルス感染症も落ち着き、会議形式を口の字（対面形式）に戻し、向かい合って意見を交わす良さを感じながらの議事運営となりました。

また、月１回の会議が有意義な時間となるよう考慮しながら会議運営を行いました。活発な意見交換を目指してきましたが、本会議で意見を述べることに抵抗を感じる委員も多く、幅広く発言を促すことに課題を感じました。

区民と行政を結ぶ要の機関として、その役割を果たすために議論を重ね、持続可能な会議運営を行ってきました。

イ　区自治協議会委員研修会の実施

令和５年度は、委員からの要望の多かった他区自治協議会委員との交流を目的として、東区自治協議会と合同で研修を実施しました。部会ごとに意見交換を実施し、大変有意義な時間となりました。

令和６年度は、北区の歴史を再確認するために、北区郷土博物館見学を行いました。学芸員から展示解説をしていただき、最後に意見交換の場も設け、北区の歴史を改めて知る良い機会となりました。

(2)　部会・提案事業について

ア　総務部会

総務部会は、区自治協議会全体の運営、協議内容の検討、区自治協議会だよりの編集を所管する部会です。

全体会の内容を事前に確認し、より活発な区自治協議会とするにはどのようにすべきか検討を行いました。

イ　地域づくり部会

地域づくり部会は、商工業、農業、大学などとの連携、道路、土地利用、公共交通、防災分野を所管する部会です。

令和５年度は、「防災」を調査・研究のテーマに設定し、「ハザードマップの見方講習会」、「福島潟及び新井郷川の治水事業についての講演」、「「長岡震災アーカイブセンターきおくみらい」視察」などを通して、防災について学びました。

令和６年度は、公募により「絵札・読み札」を募り、「北区防災かるた」を作成しました。北区の水害の歴史に関する札もあり、北区特有の「かるた」になりました。また、「かるた」を北区内の小学校、中学校に配付するとともに、「北区ふゆっこまつり」に出展し、多くの子どもたちに体験してもらいました。

ウ　福祉教育部会

福祉教育部会は、健康、福祉、子育て、教育、協働、防犯・交通安全分野を所管する部会です。

令和５年度は、「地域活動の担い手不足（見守り・子育て支援・交通安全）」を調査・研究のテーマに設定し、「地域の茶の間」の活動状況、振り込め詐欺・空き巣の被害防止などについて、専門職員などから研修を受けました。その他、前年度好評だった新潟医療福祉大学と連携した健康講座を実施しました。

令和６年度は、地域活動に参加したいが地域との関係が薄い人などに向けて地域活動への参画を促す「これからの人生の遊び方・過ごし方～得意なことから地域に出よう～」と題し、新潟お笑い集団 NAMARA 代表の江口歩さんを講師に招き講演会・ワークショップを行いました。

エ　自然文化部会

自然文化部会は、環境保全、自然環境活用、観光対策、文化・スポーツ、浸水対策分野を所管する部会です。

令和５年度は、「北区の魅力ある景勝地・施設等をめぐり、専門家等の話を聞き、学習する」を調査・研究のテーマに設定し、北地区の景勝地や福島潟を船で巡る、潟料理を味わうなど、北区の魅力を体感しました。

令和６年度は、前年度の調査研究を参考に検討し、自身で感じた北区の魅力を発信する事業として「トークセッション「潟料理の魅力を語る」」を実施しました。福島潟の魅力、潟料理の紹介、その他北区の魅力をトークセッションや北区魅力クイズを通して発信しました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3　おわりに

第９期は、新たな「北区区ビジョンまちづくり計画」施行の２年間として、新たに掲げた基本方針のもと、大学との連携や区自治協議会提案事業を通した防災意識の啓発、自然の魅力発信などに取り組みました。

今後、少子高齢化が進行し人口が減少するなか、区民や行政、多様な機関との連携による「まちづくり」が一層重要となります。

第１０期では、協働の要として更なる活動の活性化が図られることを期待します。

令和５年度

様式

令和6年3月31日

区自治協議会提案事業　事業評価書

北区自治協議会
地域づくり部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	地域課題の解決に向けた調査研究 【事業費予算　　500千円】
事業目的・概要	区民と協働し、北区の地域課題の解決やまちの活性化に取り組む。 防災分野の地域課題の解決に寄与する事業を令和6年度に実施することを見据え、必要な調査研究等を行う。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	産業・防災・交通など地域に関する分野を所管する、地域づくり部会では、「防災」を調査・研究のテーマに設定し、以下の事業を実施した。 〇ハザードマップの見方などの防災講習 【開催日】令和5年9月28日（木） 【内　容】ハザードマップなどを通じて、北区の災害リスクや日頃の備えについて研究 【講　師】北区地域総務課　地域・防災グループ 〇福島潟周辺整備事業、福島潟放水路や新井郷川の役割について 【開催日】令和5年10月26日（木） 【内　容】新井郷川・福島潟の概要、近年の治水事業、 福島潟周辺整備事業に関すること、福島潟放水路の仕組みなど 【講　師】新潟地域振興局地域整備部治水課 〇長岡震災アーカイブセンターきおくみらい視察研修 【開催日】令和5年11月10日（金） 【内　容】長岡震災アーカイブセンターきおくみらい館内見学、 講演「一般的な地域住民に知ってもらいたい防災情報、災害対策について」 【講　師】地域防災カセンター長　野村祐太　氏 〇企画事業に関するワークショップ開催 【開催日】令和5年12月21日（木）、1月25日（木） 【内　容】ワークショップ（次年度実施事業を計画立案） 【講　師】NPO法人　ふるさと未来創造堂　中野雅嗣　氏
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	・地域課題の抽出や調査研究のテーマを設定するにあたり、関係部署から区の現状等を聞き取るとともに、委員一人ひとりが地域課題についての意見を出し合い、活発な議論を経て、地域課題と調査研究テーマの設定ができた。 ・9月～11月の調査研究では、基本的な防災知識のほか、北区の災害リスクや治水に関すること、中越地震の教訓などを学び、防災に関する見識が広がった。令和6年度に実施する事業案検討に有効であったと評価できる。 ・12月～1月に外部のファシリテーターを招き、実施したワークショップでは、9月～11月の調査研究で、委員が感じた「区民に伝えたいこと」を具体化することができ、区自治協議会提案事業として、実施効果の高い事業を計画する一助となった。
備考	

令和５年度

様式

令和6年3月31日

区自治協議会提案事業　事業評価書

北区自治協議会
福祉教育部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	地域課題の解決に向けた調査研究 【事業費予算　　500千円】
事業目的・概要	区民と協働し、北区の地域課題の解決やまちの活性化に取り組む。 福祉・教育・防犯分野の地域課題の解決に寄与する事業を令和6年度に実施することを見据え、必要な調査研究等を行う。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	福祉・教育・防犯分野を所管する福祉教育部会では、「地域活動の担い手不足（見守り・子育て支援・交通安全）」を調査・研究のテーマに設定し、以下の事業を実施した。 ○「地域の茶の間」の活動状況について 【開催日】令和5年8月28日（月）13:30～15:00 【内 容】現状と課題など 【講 師】支え合いのしくみづくり会議コーディネーター　【参加者】10名 ○ 犯罪のない安心安全なまちづくりをめざして 【開催日】令和6年2月22日（木）15:30～16:30 【内 容】振り込め詐欺・空き巣の被害防止 など 【講 師】市民生活課職員　　【参加者】8名 ○ 区民アンケート調査 【調査方法】「北区自治協議会だより」及び新潟市公式LINEで募集 郵送・電子申請による回答235件 【調査期間】令和5年11月1日から20日（20日間） 【内　容】過去1年間のボランティア経験の有無、講座内容 ○ あなたのための健康講座 【開催日】令和6年2月10日(土)13:00～15:00 【会場】新潟医療福祉大学 【講師】同大学医療技術学部臨床技術学科　横山貴准教授ほか4名、学生27名 【内　容】自分の脳年齢・血管年齢、心電図、尿定性検査等の測定を体験して健康状態を確認。病院等で行われている臨床検査の検査方法や結果の解釈について学生と一緒に学ぶ。 【参加人数】 52人
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	・地域課題の抽出や調査・研究テーマを設定するにあたり、関係部署から区の現状等を聞き取りした。委員一人ひとりが多くの意見を出すことができ、活発な議論を経て、地域課題と調査・研究テーマの設定ができた。 ・防犯に関する学習会は、「防犯・交通安全」分野が今期から新たに加わったジャンルであったため、専門職から話を聞いて区の現状を知ることができ、今後の活動への参考となる学習会であった。 ・健康講座は前年度好評だったため、委員の希望により実施。大学からも学生の派遣などご協力いただいた。内容の検討から、意見交換を重ね、当日も運営に関わることで、次年度事業実施に向けてのノウハウを蓄積できた。 参加者アンケートや区民アンケートを分析し次年度事業に活かしていきたい。
備考	

令和５年度

様式

令和6年3月31日

区自治協議会提案事業　事業評価書

北区自治協議会
自然文化部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	地域課題の解決に向けた調査研究 【事業費予算　　500千円】
事業目的・概要	区民と協働し、北区の地域課題の解決やまちの活性化に取り組む。 自然環境保全・自然環境活用・観光交流等の分野の地域課題の解決に寄与する事業を令和6年度に実施することを見据え、必要な調査研究等を行う。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	環境保全・自然環境活用、観光交流等の分野を所管する自然文化部会では、「北区の魅力ある景勝地・施設等をめぐり、専門家等の話を聞き、学習する」を調査・研究のテーマに設定し、以下の事業を実施した。 ○北地区の景勝地、施設を巡る 【開催日】令和5年7月27日(木)　午後2時45分～5時 【内　容】ひょうたん池、南浜海水浴場、海辺の森の視察 【説明者】北区建設課職員、北区産業振興課長、海辺の森管理者 ○福島潟を船から視察 【開催日】令和5年8月28日(月) 【内　容】船で福島潟を巡る、潟の食材を使った潟料理を試食 【説　明】福島潟新井郷川漁業協同組合　※潟料理:割烹松潟屋 ○北区郷土博物館視察 【開催日】令和5年9月26日(火)午後1時30分～3時30分 【内　容】常設展示の解説付き視察 【説　明】学芸員曽部さん ○ビュー福島潟視察 【開催日】令和5年12月21日(木)午後3時～4時 【内　容】ビュー福島潟展示室の解説付き視察、ライブ映像によるオオヒシクイの観察 【説　明】ビュー福島潟レンジャー赤井さん
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	初回に北区の現状について、区ビジョンまちづくり計画をもとに所管課から説明や質疑応答の時間をもった。その後、調査研究したいテーマについて部会内で議論し、北区の魅力を発信するためにはまず自分たちでその魅力を知ることが大切ということで、上記テーマとした。 北区内の景勝地や施設を実際に巡り、関係者にその現状や課題、展望、「熱い想い」などについてお聞きした。課題としては、「魅力の発信がまだ足りていない」「魅力発信やその保全活動などを継承する人材不足」「経済面において北区に潤いを与えるために、リピーターを増やす仕掛けが必要」などがあげられた。また、北区民の情報収集方法についてアンケート調査を行い、有効な発信方法について検討した。調査研究で得た情報や課題を見据え、次年度の北区魅力発信事業に活かし、取り組んでいきたい。
備考	

※　令和６年度　北区事業評価書は令和７年３月中に確定

東区自治協議会（第９期）を振り返って

東区自治協議会会長　佐藤　清

1　はじめに

令和５年４月に第９期がスタートして、５月に新型コロナウイルス感染症が５類に引き下げられました。コロナ渦の約４年間、新しい生活様式での会議運営や、委員活動を実践してきましたが、少しずつコロナ渦前に戻していく２年間でした。

これまで開催を見合わせていた各地域での活動も再開したことにより、委員自身の活動量も変化していく中、東区自治協議会の活動にも積極的に参加いただき、令和５年度には東区民意識調査を実施しました。調査結果は今後の区自治協議会での活動にも活かしていきます。

また、令和６年度は、元日に発生した能登半島地震に関して、地域の状況を意見交換する場も多くありました。１月の全体会後の意見交換など、地域での様子や対応状況について行政と共有し、協働の要としての役割を果たせたものと思っています。

次期の東区自治協議会において、更なる地域課題の解決に取り組んでいただけるよう、第９期の成果や取組をここに報告いたします。

2　取組内容・成果・課題

(1)　全体会について

ア　会議運営

全体会の運営に対するご意見として、議事が少ないときは情報交換の時間を設けたらどうかとの提案がありました。

令和５年度から６年度の切り替わりとなる３月と４月の全体会では、退任される委員の挨拶だけでなく、委員のみなさまから１年間の振り返りや今後の抱負、ご自身の団体や活動を紹介していただく場を設けました。

また、違う部会の委員同士の交流があまり無いということで、全体会終了後に５グループに分かれて、情報交換会を開催しました。その際は、「各地域での活動を知りたい」という意見もいただいていたので、そのテーマで各グループ盛り上がっていました。

委員同士のコミュニケーションが増え、各委員が抱える日頃の課題感や所属する団体の活動等を共有できれば、議論も活発化していくと思いますので、第10期でも工夫を凝らしながら運営していくことを期待します。

イ　委員研修会

令和５年度の委員研修会は、「北区・東区合同自治協議会委員研修会」として北区の委員の方を東区にお招きして、部会ごとに意見交換会を行いました。東区での各部会所管分野と同じ分野を担当している北区の委員の方に入っていただき、お互いの活動事例紹介を行った後、イベント開催時のボランティア募集についての悩みや、広報の課題など、どの部会も時間が足りなかったという感想をいただくほど、活発で有意義な意見交換ができました。令和６年度は、「プロの編集者から広報について学びたい」という意見がありました。日ごろ活動されている所属団体や組織でも活かせる内容でもあるということで、民間企業の編集者を招いて、広報する際のポイントについて学びました。

⑵　部会・提案事業について

東区自治協議会では第８期から委員任期である２年間を一区切りとして取り組むこととし、１年目は地域課題の調査研究を実施し、２年目にそれを踏まえた事業を実施することとしています。

各部会の所管分野としては、以下のとおりとなります。

第１部会　「市民協働部門」として、コミュニティ（地域活動・市民活動）、防犯・防災・交通安全や行政運営などを所管。

第２部会　「福祉・教育・文化部門」として、福祉・子育てや教育・生涯学習、文化・スポーツなどを所管。

第３部会　「産業・環境部門」として、商工業・農業・観光や住環境（公害・ゴミ・公園・下水）、都市交通・都市景観、自然環境などを所管。

ア　東区民意識調査

調査研究の年となる令和５年度は、第１部会、第２部会、第３部会の合同で、東区民意識調査を行いました。

全体で 40 問の質問を想定し、そのうち 10 問は居住地域などの基本質問、残りの 30 問を各部会で 10 問ずつ担当しました。各部会とも、所管分野の地域課題が見えてくる質問と選択肢を、ワークショップ形式の意見交換を行いながら検討しました。

また、満 15 才以上の区民 3,000 人を対象とすることにしたので、調査票を発送するまでの過程における事務作業も多くありましたが、全体会議や部会の前後の時間を使いながら、委員のみなさんで一体感を持って取り組むことができました。

イ　第 1 部会

東区民意識調査では、「自治会・町内会活動」と「防災・防犯」という２つのテーマにフォーカスした内容の質問を設定し調査しました。また、令和６年元日に発生した能登半島地震では、災害時の初動に対する認識不足から避難所などが混乱したため、取り組むテーマを「地震発災直後の初期対応の周知」として、実施事業の検討を行いました。検討の結果、津波ハザードマップについて親子で学ぶ防災イベントを実施しました。イベントでは、令和６年度に東区総務課が作成した「東区津波ハザードマップ」を活用し、参加者が実際のマップを見ながらご自身の避難計画を考えることにより、発災直後の初動について考えてもらう機会の提供を行いました。

ウ　第 2 部会

東区民意識調査では、「福祉（特に高齢者福祉）」と「子育て」という２つのテーマにフォーカスした質問を検討していきました。家族以外の人と交流する場を持っていない方が多いこと、またこども食堂に関心がある方も多いことがわかりました。そのような点から、事業実施に向け取り組むテーマを「子ども食堂を中心とした交流の場づくり」としました。

当初は子ども食堂の開催周知を課題として取り組み始めましたが、東区内の子ども食堂運営者を対象に行った課題調査アンケートで、ひとの支援・ものの支援・金銭的な支援が不足しているという別の課題があることが判明しました。持続可能な交流の場づくりには、その課題を少しでも解決できるような取組が必要と考え、潜在的支援の掘り起こしのために、不特定多数の人に視覚で訴えられる手段として、動画の作成に取り組みました。

エ　第 3 部会

東区民意識調査では、「東区の住みやすさ」を大きなテーマに据えて質問を検討しました。調査結果では東区の住環境に満足している割合は約８５％でしたので、この先も住み続けたいと思ってもらえるような事業を検討していきました。検討の結果、事業実施のテーマを「東区の魅力的なスポット・エリアの探求及び発信」として、東区の隠れた魅力を発信することにしました。

事業内容としては、東区に３つある駅を中心とした東区の南側エリアのＰＲ用コンテンツを製作して魅力を発信することに決定しました。コンテンツ製作のために、委員自身が各々の担当エリアを実際に歩いて探索・取材することにより魅力を再発見し、その魅力を部会内でプレゼンテーションを行って、ＰＲ用コンテンツに掲載するスポットを選定しました。

東区の南側エリアに行ったことがない、または詳しくない方に向けて、まずは興味を持ってもらえるようなコンテンツを製作することができたと思っています。

オ　広報紙編集部会

東区では、年 3 回「自治協かわらばん」を区だよりと一緒に発行しています。区自治協議会の役割について知ってもらうために、どのような内容にすると効果的かという視点で掲載内容を毎回検討し、発行しています。令和 6 年度は委員改選に伴う公募委員の募集について掲載するに当たり、どのような内容であれば応募のきっかけになるのかを検討し、発行しました。

※第１部会から第３部会の提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3　おわりに

次期第 10 期は、地域課題の把握や効果的な区自治協議会提案事業を実施するにあたり、委員任期 2 年のうち 1 年目を地域課題に関する調査・研究、2 年目をアクションの年と位置付けてから 3 回目の任期となります。任期 2 年間のスケジュールづくりなど、これまでの経験を活かし、より効果的・効率的な内容の事業を実施できるよう、各部会において、所管分野の活発な議論をしていただけけると考えております。

区自治協議会が、新しい体制の中で、区民と区役所の「協働の要」としての役割を果たし、私たちの東区がますます住み良いまちとなるよう取り組んでいくことを願います。

令和５年度

様式

〔 第1部会 〕

令和 6 年 3 月 25 日

区自治協議会提案事業　事業評価書

東区自治協議会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	地域課題の解決に向けた調査研究　「東区民意識調査」の実施 【事業費予算　2,400千円】 ※各部会共通
事業目的・概要	（1） 区民と協働し、東区の地域課題の解決や街の活性化に取り組む。 （2） 区民自らが、「東区のまちづくりや暮らしやすさ」とは何かを考え、地域の強みや資源を再評価するとともに、地域の魅力を区内外に発信するための材料を得る。 （3） 市民協働分野の地域課題を明らかにし、令和5年度からスタートした「東区区ビジョンまちづくり計画」の理念に沿った事業の遂行方針の一助とするとともに、令和6年度東区自治協議会提案事業立案の参考にする。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	（1） 調査票の設問設定に係る協議 【実施期間】 令和5年4月～令和5年8月　全5回 【検討内容】 第1部会が所管する部門「市民協働」に関連する調査項目の設定 【設問数】　 全37問中10問 （2） 調査票の発送による調査 【調査期間】 令和5年11月13日（月）発送～11月30日（木）締切 【調査内容】 東区のまちづくりや暮らしやすさに関する設問全37問（選択式） 【調査対象】 令和5年10月1日時点で東区内に住民票を持つ満15歳以上の中から無作為に抽出された3，000人 【調査実績】 有効回答1，336人（44．5%） （3） 調査結果の分析および令和6年度実施事業の検討 【実施期間】 令和6年1月～3月　全3回 【検討内容】 意識調査の結果を分析し、区民の意識およびニーズを把握 上記を踏まえた令和6年度事業について検討
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	・ 意識調査を実施し、区民からの意見を広く聴取することによって、東区自治協議会へ期待するものについて把握する機会となったのみならず、令和5年度よりスタートした「東区区ビジョンまちづくり計画」の理念に沿った事業を遂行するにあたっての貴重な検討材料となった。 ・ 意識調査の結果を報告書にまとめ、課題や傾向を見える化したことで、令和6年度に部会として実施する具体的な取り組みを協議していく上での検討材料とすることができた。 ・ 地域課題の抽出や調査項目を設定するにあたり、グループに分かれてワークショップを複数回実施した。結果、委員一人一人が多くの意見を出すことができ、活発な議論を経て、項目を設定することができた。 ・ 第8期の1部会で調査および研究を実施した「自治会・町内会の人材不足」に関して、継続して調査項目に設定したとともに、「自治会・町内会活動」、「防犯・防災」の大きく分けて2つのテーマにフォーカスしてアンケート調査を実施した。委員がそれぞれの立場から感じている課題や地域資源について情報交換を行い、より具体的な項目を設定することができた。
備考	

令和５年度

様式

〔 第2部会 〕

令和 6 年 3 月 25 日

区自治協議会提案事業　事業評価書

東区自治協議会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	地域課題の解決に向けた調査研究　「東区民意識調査」の実施 【事業費予算　2,400千円】 ※各部会共通
事業目的・概要	（1） 区民と協働し、東区の地域課題の解決や街の活性化に取り組む。 （2） 区民自らが、「東区のまちづくりや暮らしやすさ」とは何かを考え、地域の強みや資源を再評価するとともに、地域の魅力を区内外に発信するための材料を得る。 （3） 福祉・教育・文化分野の地域課題を明らかにし、令和5年度からスタートした「東区区ビジョンまちづくり計画」の理念に沿った事業の遂行方針の一助とするとともに、令和6年度東区自治協議会提案事業立案の参考にする。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	（1） 調査票の設問設定に係る協議 【実施期間】 令和5年4月～8月　全5回 【検討内容】 第2部会の所管部門「福祉・教育・文化」に関連する調査項目の設定 【設問数】　 全37問中10問 （2） 調査票の発送による調査 【調査期間】 令和6年11月13日（月）発送～11月30日（木）締切 【調査内容】 東区のまちづくりや暮らしやすさに関する設問全37問（選択式） 【調査対象】 令和6年10月1日時点で東区内に住民票を持つ満15歳以上の中から無作為に抽出された3，000人 【調査実績】 有効回答1，336人（44．5%） （3） 調査結果の分析および令和6年度実施事業の検討 【実施期間】 令和6年1月～3月　全3回 【検討内容】 意識調査の結果を分析し、区民の意識およびニーズを把握 上記を踏まえた令和6年度事業について検討
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	・ 意識調査を実施し、区民からの意見を広く聴取することによって、東区自治協議会へ期待するものについて把握する機会となったのみならず、令和5年度よりスタートした「東区区ビジョンまちづくり計画」の理念に沿った事業を遂行するにあたっての貴重な検討材料となった。 ・ 意識調査の結果を報告書にまとめ、課題や傾向を見える化したことで、令和6年度に部会として実施する具体的な取り組みを協議していく上での検討材料とすることができた。 ・ 地域課題の抽出や調査項目を設定するにあたり、グループに分かれてワークショップを複数回実施した。結果、委員一人一人が多くの意見を出すことができ、活発な議論を経て、項目を設定することができた。 ・ 調査項目は、「どうしたら東区を楽しいまちにすることができるか」を大きなテーマに据え、「こころの居場所」、「多世代交流」、「日常の助け合い」、「子ども食堂」の4つにフォーカスした。委員がそれぞれの立場から感じている課題や地域資源について情報交換を行い、より具体的な項目を設定することができた。
備考	

令和５年度

様式

〔 第3部会 〕

令和 6 年 3 月 25日

区自治協議会提案事業　事業評価書

東区自治協議会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	地域課題の解決に向けた調査研究　「東区民意識調査」の実施 【事業費予算　2,400千円】 ※各部会共通
事業目的・概要	（1） 区民と協働し、東区の地域課題の解決や街の活性化に取り組む。 （2） 区民自らが、「東区のまちづくりや暮らしやすさ」とは何かを考え、地域の強みや資源を再評価するとともに、地域の魅力を区内外に発信するための材料を得る。 （3） 産業・環境分野の地域課題を明らかにし、令和5年度からスタートした「東区区ビジョンまちづくり計画」の理念に沿った事業の遂行方針の一助とするとともに、令和6年度東区自治協議会提案事業立案の参考にする。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	（1） 調査票の設問設定に係る協議 【実施期間】 令和5年4月～8月　全5回 【検討内容】 第3部会の所管部門「産業・環境」に関連する調査項目の設定 【設問数】　 全37問中10問 （2） 調査票の発送による調査 【調査期間】 令和6年11月13日（月）発送～11月30日（木）締切 【調査内容】 東区のまちづくりや暮らしやすさに関する設問全37問（選択式） 【調査対象】 令和6年10月1日時点で東区内に住民票を持つ満15歳以上の中から無作為に抽出された3，000人 【調査実績】 有効回答1，336人（44．5%） （3） 調査結果の分析および令和6年度実施事業の検討 【実施期間】 令和5年12月～令和6年3月　全3回 【検討内容】 意識調査の結果を分析し、区民の意識およびニーズを把握 上記を踏まえた令和6年度事業について検討
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	・ 意識調査を実施し、区民からの意見を広く聴取することによって、東区自治協議会へ期待するものについて把握する機会となったのみならず、令和5年度よりスタートした「東区区ビジョンまちづくり計画」の理念に沿った事業を遂行するにあたっての貴重な検討材料となった。 ・ 意識調査の結果を報告書にまとめ、課題や傾向を見える化したことで、令和6年度に部会として実施する具体的な取り組みを協議していく上での検討材料とすることができた。 ・ 地域課題の抽出や調査項目を設定するにあたり、過去に秋葉区で実施した意識調査の手法や結果を参考にしつつ、回答しやすい質問の構成等について検討した。また、分かりやすいタイトルについて提案し、その結果「あなたの声をきかせてください」という副題が採用された。 ・ 調査項目は、「東区の住みやすさ（住環境）」を大きなテーマに据え、「買い物のしやすさ」、「お出かけ」、「公園」等に関する質問を設定した。委員がそれぞれの立場から感じている課題や地域資源について情報交換を行い、より具体的な項目を設定することができた。
備考	

※　令和６年度　東区事業評価書は令和７年３月中に確定

中央区自治協議会（第９期）を振り返って

中央区自治協議会会長　佐藤　雅之

1. はじめに

第９期中央区自治協議会では、①「審議会」としての役割を果たすため、市からの諮問事項について、関連部会において審議したうえで、全体の意見を集約すること、②「地域代表」としての役割を果たすため、毎月定例で開催していた全体会を原則隔月開催に見直し、地域との情報共有の時間を確保し議論を深めること、③審議するうえでの知識の習得と議論の活性化を目的に、委員向け勉強会（研修会）の充実・強化を図ること、以上３つのポイントを意識して活動しました。

また、「中央区区ビジョンまちづくり計画」の「目指す区のすがた」に基づき設置された４つの部会においては、委員が自発的に地域課題の解決に向けて、様々な関係団体や若い世代と連携した取組を実施し、将来につながる事業を展開することができました。以下、その成果と課題を振り返ります。

2. 取組内容・成果・課題

（１） 全体会について

ア 審議・検討に重きをおいた取組

全体会では、必要な案件を整理し、要点を絞った簡潔でわかりやすい資料作成や原則資料の事前配布を担当課・事務局にお願いすることで、委員が議論しやすく地域の意見を届けやすい運営を心掛けました。

特に、市からの諮問事項に対し、必要な知識を備えたうえで審議を行い、的確な意見を述べることができるよう、事前に全委員を対象とした勉強会を開催し、担当課による講義、質疑応答、意見共有の時間を設けました。さらに、関連部会においても議論を重ね、意見を取りまとめたうえで答申することができました。

また、全体会が活発な議論の場となるよう、市からの意見聴取や報告だけでなく、委員相互の課題認識と情報共有の場として、第８期に引き続き「委員提案による討議」の時間を設けました。２回に渡り、身近な地域課題である「自治会等の役員の成り手不足」をテーマとして、自治会運営のデジタル化の導入や役員の負担軽減のための工夫などについて情報共有・意見交換を行い、地域へのフィードバックが期待できる有意義な討議を行うことができました。

イ　資料デジタル化の導入

委員からの提案に基づき、令和５年８月の全体会から資料のデジタル化を導入しました。事務局から一定の運用ルールを提示してもらったうえで、全ての委員を対象に意向調査が行われ、希望者には全体会の資料がデータ形式で送付されることとなりました。この取組により、資料の受け取りや確認が迅速かつ効率的になったことに加え、環境負荷の軽減やペーパーレス化にも寄与することができたと考えています。

ウ　委員向け勉強会の実施

委員からの自発的な提案により、中央区自治協議会委員を対象とした区独自の勉強会を各年度に２回開催しました。

令和５年度１回目は、諮問事項である「市立保育園配置計画に基づく山潟保育園の閉園（案）について」を審議するにあたり、基礎知識を身に付け、議論を活発化させることを目的として開催しました。市の児童数や保育ニーズの現状、保育施設の概要、「市立保育園配置計画」の背景や今後の方針などを学んだ結果、諮問に対して多角的な視点で答申することができました。

２回目は、「にいがた 2km」について、事業目的や目指す姿を学び、今後の区自治協議会における審議や部会活動に活かすことを目的として開催しました。担当課から事業内容や今後の方針に関する講義を受け、古町・本町エリアを対象とした部会の取組に繋げることができました。

令和６年度１回目は、「ボランティア活動のより良い環境づくりについて」をテーマに、中央区社会福祉協議会から講師を招いて「ボランティア」の定義や在り方を学びました。また、ボランティア活動に参加しやすい環境づくり（参加者の立場）や、参加を促しやすい環境づくり（主催者の立場）について意見交換を行い、地域活動をより充実させるヒントを得ることができました。

２回目は、「学校給食の無償化」をテーマに開催しました。地域コミュニティ協議会の選出者や地域教育コーディネーターなど、地域と学校のつなぎ役として活動している委員も多いことから、現状や課題、影響について様々な角度から意見を交わしました。担当課の講義、質疑応答、そしてグループワークを通して意見交換を行うことで、区自治協議会活動においても多様な視点を持つ重要性を再認識する機会となりました。

（２）　部会・提案事業について

ア　第１部会

第１部会は、「賑わい創出／交流人口／都市機能」の分野を所管する部会です。

第９期では、新潟駅のリニューアルオープンや新潟駅バスターミナルの開業など、駅を中心とした賑わいを好機と捉え、市内外からの来訪者をターゲットとして、古町・本町エリアの飲食店から応募のあった「推し」メニューをインスタグラムで紹介し、市内外からの誘客を図る「にいがた推しメシプロジェクト in 古町・本町」を実施しました。

このプロジェクトでは、中央区自治協議会で初めてインスタグラムを立ち上げ、学生委員より操作・活用方法を学ぶとともに、参加店を募るため商店街組合などの関係団体へ協力要請したり、各店舗へ訪問説明したりするなど、委員が主体的に活動し、区自治協議会の認知度向上と古町・本町エリアの活性化に寄与することができました。

イ　第 2 部会

第２部会は、「協働/子育て・教育/健康・福祉/防災・防犯/生活環境」の分野を所管する部会です。

第９期では、当初、防災啓発イベントの開催を検討していましたが、令和６年１月の能登半島地震の発生を受け、地域課題としてあげられた「地震発生初期からの避難所運営の在り方」を検討するため、各コミュニティ協議会を通じて、地震に関するアンケートを実施しました。

アンケートの結果を踏まえて、令和６年 11 月に新潟市防災士の会会長による防災講演会及び各コミュニティ協議会の参加者によるワークショップを開催し、能登半島地震における避難所開設で直面した課題を掘り下げ、今後の地域での避難所運営に活かすための情報交換を行うことができました。

ウ　第 3 部会

第３部会は、「水辺／緑化」の分野を所管する部会です。

第９期では、新潟市がラムサール条約湿地自治体に認証されたことに伴い、鳥屋野潟の現地視察や関係団体との意見交換会を実施し、市民目線で鳥屋野潟の活用イメージ図案を作成しました。

また、鳥屋野潟の活用・魅力発信を目的として「市民が描く『とやのテラス（仮称）』とは？」と題して公開フォーラムを開催しました。第３部会で検討を進めてきた公園構想の発表や有識者などを交えたパネルディスカッションを実施し、鳥屋野潟が市民により一層親しまれる活用イメージの実現に向けた一助になったと考えています。

エ　第 4 部会

第４部会は、「歴史・文化／産業／まちなみ」の分野を所管する部会です。

第９期では、特に若い世代をターゲットに、魅力ある中央区の食文化や歴史を認知し、興味を持ってもらうきっかけとなるよう、学生と連携して区内の老舗紹介リーフレットを制作し、区内公共施設や大学、専門学校等に配布しました。

リーフレットのデザインや構成について、大学生や専門学生との座談会を開催し、若い世代の新鮮で柔軟な発想を紙面に取り入れたほか、老舗情報に関連して、区内の歴史・文化の紹介コラムを掲載し、湊町としての魅力や地域の歴史的変遷を発信することができました。

大学生には、実際に老舗の取材をしてもらい、若者の視点から質問を行うことで、これまで敷居が高いと感じていた老舗に対して興味を持ち、訪れてみたいと思うきっかけになったと考えています。

今後も、リーフレットを手に取った若者が気軽に老舗を訪れ、その魅力を体感することを期待しています。

オ　中央区自治協議会だより編集部会

中央区自治協議会だより編集部会では、区自治協議会がどのような組織であるか、どのような活動を行っているのか、その基本的な疑問を意識しながら「中央区自治協議会だより」を年２回発行しました。限られた紙面の中で、読み手にとって分かりやすく伝わるよう工夫を重ね、認知度向上に努めました。

特に、第９期では若い世代に区自治協議会の活動に興味を持ってもらうことを目的に、区内大学及び専門学校からの選出委員へのインタビュー記事を掲載しました。また、デジタル技術を活用した自治会運営「スマート自治会」の取組や、「ボランティア活動のより良い環境づくり」など、「委員提案に基づく討議」や勉強会の様子をシリーズで紹介し、地域活動の参考になったと反響もありました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3. おわりに

第９期では、これまで毎月定例で開催していた全体会を原則隔月開催に見直し、休会する月を設けることにより、議事を集中させるとともに、討議内容について一度地域に持ち帰り、十分な時間をかけて現状や課題を整理したうえで議論に臨むことを心掛けました。地域課題や住民ニーズが多様化するなか、来期以降においても、区自治協議会での議論や取組を地域へフィードバックし、地域の意見調整や情報共有を意識しながら活動することが求められています。

各部会の提案事業においては、新任委員も多く、最初は活動に戸惑いを感じる声も聞かれ、テーマ決定に時間を要しましたが、関係団体や有識者を講師に迎えた勉強会を開催するなど、地域課題について丁寧に議論を重ね、委員一人ひとりが地域課題を理解し、主体的に提案事業を実施することができました。

また、全体会資料のデジタル化や部会活動での SNS アカウントの立ち上げ・活用など中央区自治協議会初の試みもありましたが、来期以降においても、社会情勢や委員の興味関心に応じて、より効率的な会議運営方法の検討や効果的な事業実施を推し進めてほしいと考えています。

地域活動の担い手不足が深刻化するなか、区自治協議会の取組を若い世代に認知してもらい、まちづくりへの参画を促すことで、持続可能な地域づくりにつながるものと考えます。来期においては、大学や専門学校からの選出委員を増員し、新たに 40 歳以下の公募委員枠を設けるなど、これまで以上に若い世代の視点を取り入れ、前例にとらわれない斬新なアイディアの創出が期待されます。

来期以降も活発な議論と創意工夫を重ねることで、区自治協議会の活動が中央区の更なる発展と魅力あるまちづくりへとつながるよう願っています。

令和５年度

令和6年4月26日

区自治協議会提案事業　事業評価書

中央区自治協議会　第1部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	①地元食材を活用した新メニュー開発による古町地区の活性化・賑わい創出 ②古町地区の活性化・まちづくりへの提言
事業目的・概要	①古町地区の活性化・賑わい創出を目的とし、地元食材を活用した新メニューを開発・提供する店舗を古町・本町エリアで募集し、積極的にPRすることで誘客を図る。 ②他都市の取組を調査し、古町地区に人を呼び込むための環境整備や地域資源の活用等について提案する。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	【令和5年度実施事項】 ■上記①、②の取組に共通する実施実績 〇「にいがた2km」をテーマとした意見交換 ・「にいがた2km」に関する資料を読み込み、取組についての課題を洗い出し ・課題解決に向けた取組やまちづくりの工夫について意見交換 〇古町地区におけるまち歩き ・古町6～8番町商店街、人情横丁、本町市場、鍋茶屋通のまち歩きを実施 ・まち歩きでの気づきや課題解決策について意見交換 ■上記①の取組に関する実施実績 〇地元食材を活用した新メニュー開発の参加店募集要項案の作成 ・応募要件、参加特典等の検討 ・古町地区の商店街の関係団体へのヒアリング ■上記②の取組に関する実施実績 〇古町地区の活性化に向けた提言案の検討・骨子作成 ・他都市の優良事例について情報共有 ・古町地区における地域資源・公共交通の活用案について意見交換
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	〇第1部会は、地域コミュニティ協議会からの選出者のほか、公共交通に関し知見を有する者、区内専門学校の学生などから構成され「賑わい創出／交流人口／都市機能」を所管分野としている。 〇令和5年度は、自治協提案事業の検討にあたり「にいがた2km」に関する資料集の読み込み・意見交換から始まり、「にいがた2km」エリアのうち古町地区に絞り、継続的に人を呼び込むための取組について検討することとした。 〇第7期中央区自治協議会が制作に関わった「Furumachi ランチマップ」（令和3年2月　新潟中心商店街協同組合発行）を活用しながら、実際に古町地区のまち歩きを行い、新たな気づきや課題を共有し、「「食」を活用して古町地区の活性化・賑わい創出を図る」という方向性を見出すことができた。 〇「食」を活用した古町地区の活性化・賑わい創出に向けて、地元食材を活用したメニュー開発の参加店を募集することとし、募集要項案を検討、作成した。要綱案の内容を検討するにあたっては、新潟中心商店街協同組合からも助言をいただきながら、より良い効果を得るための工夫や参加店側のメリットについて協議を重ねることができた。 〇地元食材を活用したメニュー開発のほか、まち歩きを通して感じた課題の解決に向けて、他都市の事例を参考にしながら、観光案内標識・看板等の整備、古町芸妓文化・アニメの活用や公共交通の活性化について提言案を検討し、要点をまとめた骨子を作成した。
備考	

令和５年度

令和6年4月26日

区自治協議会提案事業　事業評価書

中央区自治協議会　第2部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	①地元食材を活用した新メニュー開発による古町地区の活性化・賑わい創出 ②古町地区の活性化・まちづくりへの提言
事業目的・概要	・防災意識の醸成・地域防災力の向上を目的としたアンケート・講演会・ワークショップを企画し実施する。 ・避難所立ち上げ時の参考となるような資料を作成する。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	【令和5年度実施事項】 ■上記①、②の取組に共通する実施実績 〇「にいがた2km」をテーマとした意見交換 ・「にいがた2km」に関する資料を読み込み、取組についての課題を洗い出し ・課題解決に向けた取組やまちづくりの工夫について意見交換 〇古町地区におけるまち歩き ・古町6～8番町商店街、人情横丁、本町市場、鍋茶屋通のまち歩きを実施 ・まち歩きでの気づきや課題解決策について意見交換 ■上記①の取組に関する実施実績 〇地元食材を活用した新メニュー開発の参加店募集要項案の作成 ・応募要件、参加特典等の検討 ・古町地区の商店街の関係団体へのヒアリング ■上記②の取組に関する実施実績 〇古町地区の活性化に向けた提言案の検討・骨子作成 ・他都市の優良事例について情報共有 ・古町地区における地域資源・公共交通の活用案について意見交換
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	〇第2部会は、地域コミュニティ協議会からの選出者のほか、社会福祉協議会、防災士、地域教育コーディネーター、区内専門学校の学生などから構成され、「協働／子育て・教育／健康・福祉／防災・防犯／生活環境」を所管分野としており、部会を構成するメンバーの中で防災士や防災に携わる者が多いことに加え地域の関心も高いことから、「防災」をテーマとして取り組むこととした。 〇当初は、防災意識の醸成を目的としたイベントの実施を検討していたが、令和6年能登半島地震を受け、自治会の防災担当者や避難所担当者を対象とした講演会・ワークショップの開催に変更したことで、より地域の防災力の向上に資する取り組みとなると思われる。 〇また、防災に関する講演会の実施に向け、能登半島地震の対応に関するアンケートを実施し、講演会の効果がより高くなるよう工夫した。 （参考）アンケート内容 ・避難所運営で気になった点や改善点、良かった点など ・避難所に避難する過程で問題となったことや気づき ・避難所に避難しなかった理由等 〇来年度は、講演会・ワークショップを実施するとともに、自主防災組織の立ち上げや避難所運営に役立つ資料等を作成する。
備考	

令和５年度

令和6年4月26日

区自治協議会提案事業　事業評価書

中央区自治協議会　第3部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	①地元食材を活用した新メニュー開発による古町地区の活性化・賑わい創出 ②古町地区の活性化・まちづくりへの提言
事業目的・概要	鳥屋野潟の湖岸堤整備が実施されるにあたり、鳥屋野潟が区民により一層親しまれ、活用されるような空間となる一助となることを目的に、鳥屋野潟の活用イメージ図の作成や公開フォーラムの開催を行う。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	【令和5年度実施事項】 ・中央区内の「水辺・緑地」の現地視察、課題の洗い出し ・鳥屋野潟整備実施計画や湖岸堤整備についての学習 ・鳥屋野潟で活動する団体との意見交換 ・活用イメージ図の作成
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	○第3部会は、地域コミュニティ協議会、第3部会の所管分野である「水辺・緑化」の専門分野に関わる団体から選出された委員らで構成されている。 ○中央区には、鳥屋野潟や信濃川、白山公園等、多くの「水辺・緑地」があるため、まずは現地視察を行い、課題の洗い出しを行った。 ○現地視察の際、本市は、ラムサール条約の湿地自治体認証を受けているにも関わらず、鳥屋野潟は現在あまり区民に活用されておらず、潟に親しむような空間もない状況が見受けられた。 ○今後実施される湖岸堤整備にあわせて、より区民が鳥屋野潟に親しみ、活用できるような空間となる一助となるため、鳥屋野潟の活用イメージ図の作成や公開フォーラムを行うこととした。 ○今後実施される湖岸堤整備について、資料をもとに整備の概要を学習した。また、鳥屋野潟の現状や課題に関する見識を深めるために、鳥屋野潟で活動している鳥屋野潟漁業協同組合、新潟水辺の会、日本野鳥の会と意見交換を行った。 ○学習したことをもとに、鳥屋野潟の特徴を踏まえた活用イメージ図の作成に取りかかった。 ○来年度は、関係団体との意見交換を行いながら、活用イメージ図を完成させ、公開フォーラム等で広く発信していく。
備考	

令和５年度

令和6年4月26日

区自治協議会提案事業　事業評価書

中央区自治協議会　第4部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	①地元食材を活用した新メニュー開発による古町地区の活性化・賑わい創出 ②古町地区の活性化・まちづくりへの提言
事業目的・概要	特に若い世代をターゲットに、魅力ある中央区の食文化や歴史を認知してもらうきっかけとなるよう、学生との連携も視野に入れながら老舗を取材・紹介する。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	【令和5年度実施事項】 〇第8期第3部会で実施した「中央区市民アンケート」内容の確認、意見交換 〇勉強会の実施① ・テーマ：「ソト」からみた新潟市の観光について ・日時：令和5年10月17日（火）　午後3時～ ・会場：中央区役所5階　対策室1 ・講師：新潟市観光・国際交流部観光推進課　坂下主事（佐渡市から派遣） 〇勉強会の実施② ・テーマ：中央区の歴史・文化について ・日時：令和5年11月22日（水）　午後3時～ ・会場：中央区役所5階　対策室1 ・講師：新潟シティガイド　渡辺　博氏 〇ワークショップ形式による意見交換 ・内容：中央区の魅力をアピールするための具体的な手法・内容について ・日時：令和6年1月19日（金）　午前10時～ ・会場：中央区役所5階　対策室2
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	〇第4部会は、地域コミュニティ協議会のほか、所管分野である「歴史・文化／産業／まちなみ」に関わる公共的団体からの選出者、公募委員により構成している。 〇「中央区市民アンケート」内容の確認、意見交換 ・第8期第3部会で実施した「中央区市民アンケート」の結果と、同部会がまとめた「提案書」について読み込み、意見交換を実施した。 ・アンケート項目のうち「中央区自治協議会として、最も力を入れてほしいと思うもの」について、最も回答率の高かった「観光（文化財の活用、まち歩き、国内外からの誘客の増加など）」に着目し、部会委員の見識を高めるため、観光や文化・歴史についての勉強会を開催することとした。 〇勉強会の開催 2回にわたり開催した勉強会を通して、次のような気づき・学びを得ることができた。 ・新潟市は「コレ」といった目立ったものはないが、外からの中継地点として買い物や食事で利用されるケースが多い。長く滞在してもらうための工夫を検討するため、新潟市の強みである「食」に焦点を当てて、その文化や歴史について掘り下げてはどうか。 ・市民一人ひとりが、新潟市の観光資源について、その背景（歴史）や魅力を正しく理解・認識し、市民自身がPRすることが大切である。 〇ワークショップを踏まえた今後の方向性について ・意見交換や勉強会の結果も踏まえ、中央区の魅力をアピールするための具体的な手法や内容のアイディアを出し合った結果、「食」に着目し、特に若い世代をターゲットとして、中央区の食文化や歴史をPRするため取組について検討した。 ・来年度は、学生との連携も視野に入れながら、区内の老舗等を取材し、様々な発信媒体を活用して食文化や歴史と絡めて紹介する予定である。
備考	

※　令和６年度　中央区事業評価書は令和７年３月中に確定

江南区自治協議会（第９期）を振り返って

江南区自治協議会会長　中野　高子

１　はじめに

第９期の江南区自治協議会は、約半数が入れ替わり、新たに 15 名の委員を迎えスタートしました。

前期では新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な活動の制限を余儀なくされました。今期１年目の５月に新型コロナウイルス感染症が５類に移行したことを受け、コロナ禍以前のような活動を取り戻すとともに、江南区自治協議会の活性化を目的とした研修を再開するなど、地域の課題解決に向き合ってまいりました。

２年目は、さらに活動を活性化すべく、各部会において事業の実施回数を増やし、内容の充実を図りながら、コロナ禍では制限されていた集客型の事業を開催することができました。

これまでの活動を第１０期に引継いでいくため、今期の取組、成果、課題などについて報告いたします。

２　取組内容・成果・課題

⑴　全体会について

ア　区自治協議会の認知度向上、更なる活性化について

これまでの課題であった区自治協議会の認知度向上について、第９期においても取り組んでまいりました。

具体的には、各部会の事業における広報活動や参加賞といったノベルティの作成・配布を行いました。江南区自治協議会主催のイベントで江南区親善大使のパネルを設置し、大人から子どもまで記念撮影を行えるようにすることで、江南区自治協議会に親しみを感じてもらうことができました。

また、自治協議会通信として、江南区自治協議会の役割や活動内容のほか実際に区の魅力あるスポットを訪問した際の状況を区役所だよりに掲載することにより、認知度の向上を図りました。

第１０期においても新たなメンバーの意見も取り入れながら、認知度の向上についてできることを検討し、実施したいと思います。

イ　江南区自治協議会委員研修会の開催

区内各地域の課題や特徴的な施設などを委員が把握し、理解を深めるとともに、研修を通じて委員同士の交流を図ることを目的に江南区自治協議会委員研修を行いました。

令和５年度は、建設中の天野河川防災ステーション、親松排水機場といった普段立ち入ることができない施設や新設した曽野木コミュニティセンターを視察することで、それぞれの施設についての理解を深めました。

令和６年度は、江南区の特産品である梨の袋掛け体験や梨袋を製造している柴田屋加工紙の職員から梨の袋掛けの歴史についての講話をいただきました。

通常では体験することがない作業の経験や、実際に生産者からお話しを伺うことで農業についての関心を深めるとともに、梨の生産が盛んな両川地区を散策することで地域を知ることにもつながりました。

(2)　部会・提案事業について

ア　まちづくり部会

まちづくり部会は、道路・公共交通・産業振興分野を所管する部会です。

第９期では、区内への来訪者増や関係交流人口の拡大に向けて、地域の魅力を掘り起こし発信するなど、まちの活性化につながる取組を実施しました。

１年目は、両川地区を紹介するマップを作成しました。前期に作成した曽野木・横越のマップと合わせて読むことで、江南区を囲む３本の河川(信濃川、阿賀野川、小阿賀野川)と関連する３つの地域の情報が集約され、水にまつわる歴史や文化、魅力を深く学べる仕組みとなっています。

作成にあたっては、地域を学び名所などをめぐる「まち歩き」を実施するとともに、地元の地域コミュニティ協議会をはじめ、様々な団体から情報提供などのご協力をいただきながら、部会の中で掲載内容を検討しました。

完成したマップは、区内の公共施設等に設置しているほか、地元の小・中学校にも配布され、地域学習に活用されています。

２年目は、これらのマップを活用したバスツアーを開催しました。「川と歴史探訪」をテーマに、区内の施設をめぐりながら、河川がもたらした恩恵や災害の歴史を学べる内容としました。また、地元の方にガイドとしてマップに掲載していないエピソードなどをご紹介いただき、区内在住の方であっても、新たな魅力を知ることができる機会となりました。

次期においても、今期の取組の意義や継続性を意識しながら、まちの活性化に向けた更なる取組が期待されます。

イ　安心安全部会

安心安全部会は、防犯・防災・交通安全、地域医療・福祉を所管する部会です。

第８期までは、防災に関連する事業を中心に行ってきましたが、福祉にも目を向けて取り組む必要性から、令和５年度は、福祉の事業を行い、新潟地震より 60 年の節目を迎える令和６年度は、防災の事業を行うこととしました。

令和５年度は、自分のための時間を確保するのが難しい子育て世代が、ゆっくりできる時間を過ごしてもらうために、「パパママ銭湯」を実施しました。子どもを一時的にお預かりして、ゆっくり入浴と食事をしてもらうことでリフレッシュしていただきました。全４回のうち２回では、防災教室も併せて実施し、子育て世代におすすめの備蓄品や備蓄方法、避難方法、情報の取得方法などを学ぶとともに、意見交換を行い、防災意識向上を図りました。

令和６年度は、新型コロナウイルスの影響や、短期間で役員が入れ替わる自治会が増加しているなどを理由に例年行っていた自主防災訓練を再開できない、または今まで訓練を行ったことのない自主防災組織向けにモデル訓練を行うとともに、訓練の実施を促すことを目的とした合同防災訓練を行いました。当日は、消火訓練や AED 操作・心肺蘇生法のほか、濃煙体験や起震車による地震体験も行いました。また、会場となった亀田西中学校の生徒も参加し地域防災力の向上につながるものとなりました。

ウ　環境・教育部会

環境・教育部会は、生活環境・教育・生涯学習、文化・スポーツを所管する部会です。

令和５年度は、きれいで暮らしやすい江南区を目指し、これまでのごみ拾いに、「スポーツ」のエッセンスを加え、「競技」へと変換させた日本発祥の新しいスポーツである「スポGOMI大会」について、江南区役所を会場に開催しました。

令和６年度も、大江山地区丸山小学校を会場に同大会を開催したほか、地域への愛着の醸成を目的としたフロアカーリング大会を開催しました。大会には区内８コミュニティ協議会からそれぞれ２チームが参加し、参加チームが住んでいる地域の紹介シートを作り、PR をすることによってそれぞれの地域の理解を深めることができました。さらに、江南区自治協議会や市職員チームも参加することによって、地域住民と行政の顔が見える関係づくりも構築することができました。

エ　地域課題解決サポートプロジェクトの実施

各部会の取組とは別に、暮らしやすい地域の実現につなげるため、これまで各地域で実施してきた「人口減少対策に向けたワークショップ」で整理された「コミュニティの維持・向上」や「現状の地域課題の解決」につながる地域主体の取組について、区自治協議会提案事業として支援する制度です。

令和５年度は、２つの地域コミュニティ協議会、令和６年度は３つの地域コミュニティ協議会で実施し、各地域で抱える課題に対して支援を行うことで、地域の課題解決やコミュニティの維持・向上が図られました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

３　おわりに

人口減少、少子・超高齢化などの従来からの課題はますます深刻化していることに加え、中学校の部活動の地域移行をはじめ、区民にとって身近な課題が山積していることからも、区自治協議会の重要性はますます高まっています。

第９期は、新たな新潟市総合計画及び区ビジョンまちづくり計画のスタートでもありました。これからも進捗状況を区役所と共有しながら様々な課題に向き合い、「緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち」の実現に向けて協働を進めてまいりたいと思います。

また、１期２年間で課題を解決することは容易ではないという意見もあったことから、第 10 期では 1 期目においては地域課題について調査・研究を行う期間とし、２年目ではそれを踏まえた事業を展開する予定です。

これまでの江南区自治協議会を振り返り、見直しを図っていくことにより、協働の要として更なる活動の活性化が図られることを期待します。

令和５年度

令和6年3月28日

区自治協議会提案事業　事業評価書

江南区自治協議会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	江南区　魅力発掘・発信プロジェクト 【事業費予算1，000千円】
事業目的・概要	【目的】 　アフターコロナを見据え、区内への来訪者増、関係交流人口の拡大に向けて、地域の魅力を掘り起こし発信することにより、まちの活性化につなげる。 【概要】 〇地域の魅力を発信するマップを作成する。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	<u>両川地区の魅力を発信するマップの制作</u> 【実施理由】 〇人口減少が進む中、アフターコロナを見据えながら区内への来訪者増やまちの魅力向上を図っていく必要がある。 〇区内の各地区には様々な宝、魅力があり、それらを掘り起こすとともに、江南区全体と各地域を関連付けて紹介することが重要。そのツールとして今年度は両川地区コミュニティ協議会との協働により、両川地区のマップを作成した。（R3年度：曽野木地区、R4年度：横越地区） 〇江南区は三方を川に囲まれ、豊かな水辺空間を持つ地域である。両川のマップを作成することで、江南区を囲む3つの河川が繋がる。 〇完成したマップは、区内の小中学生の学習に使用いただくため学校に配布するとともに、区内の公共施設に設置した。 【部会における取り組み】 〇両川地区まち歩きの実施 ・日時：令和5年9月22日（金） 13時から17時30分 ・場所：両川エリア（17か所） ・参加者：まちづくり部会委員9名、事務局5名、マップデザイン委託者1名 〇参考資料の収集、掲載内容の検討 ※協力：AGNET新潟、各施設所有者等
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【令和5年度の事業評価】 〇地元の住民であっても、住む土地の歴史についての理解や知識が浅いことが多い。作成により、地元の歴史を学ぶ良い機会になったとともに、コミ協や地元関係者などとの連携・協働を図ることができた。 〇マップは、地区の歴史や文化などを盛り込み、デザインも親しみのあるものにすることができた。 〇まち歩きやイベントで使用するなど効果的な活用を図る。 【来年度の展開について】 〇来年度においても、今期の取組の意義や継続性を意識しながら、まちの活性化に向けた取組を行っていく必要がある。
備考	

令和５年度

令和6年3月28日

区自治協議会提案事業　事業評価書

江南区自治協議会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	誰でも安心して安全に暮らせるまちづくりプロジェクト 【事業費予算　1,000千円】
事業目的・概要	【目的】 災害発生時などにおいて、具体的にどのような備えが役に立つか、どのような対応が必要かを習得してもらうため、PR活動等を実施する。 また、子どもから大人まで「支え合い」「助け合い」を考えるきっかけを作り、誰もが安心・安全に暮らせるまちを目指す。 【概要】 ・区役所だより「こうなん」に防災Q&Aコーナーを連載 ・パパママ銭湯の開催
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	＜区役所だより「こうなん」に防災Q&Aコーナーを連載＞ 区役所だより「こうなん」に普段疑問に思っている防災に関する質問をQ&A形式で連載。 〇内容等：緊急速報メールや災害時に役立つ知識、・・・など ＜パパママ銭湯の開催＞ 温浴施設にて、2時間程度の子どもの一時預かりを実施し、その間にパパママは入浴 や食事をして、ゆっくりと自分ケアの時間を過ごしてもらう。 開催日：1月19日、2月8日、3月8日、22日 申込組数：28組（体調不良による当日キャンセルが数組あり） ※3月8日、22日はNPO法人ふるさと未来創造堂の中野明子氏を講師として迎え、「子連れ防災おはなし会」を併せて開催した。
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	〇区役所だよりに掲載することで、効率的にPRできた。 〇パパママ銭湯では、参加者全員が「次回も利用したい」と答えており、また「ゆっくりでき、リフレッシュできた」などの声が寄せられた。また、「子連れ防災おはなし会」では、参加者は防災への不安や疑問などを積極的に発言しており、多くの参加者が「今後地域の防災訓練などに参加したい」との声が挙がっていた。
備考	

令和５年度

令和6年3月28日

区自治協議会提案事業　事業評価書

江南区自治協議会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	多世代交流”みらい”プロジェクト 【事業費予算　1,000千円】
事業目的・概要	【目的】 　子どもから高齢者まで、多世代が交流する事業を検討・実践することで、コミュニティの活性化や、暮らしやすい”みらい”の地域づくりにつなげる。 【概要】 　きれいで暮らしやすい江南区を目指し、これまでのごみ拾いに、「スポーツ」のエッセンスを加え、「競技」へと変換させた日本発祥の新しいスポーツスポGOMI大会を開催する。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	日時：11月26日（日）午前10時～正午（受付：9時30分） 集合場所：江南区役所 参加人数：20チーム79名 収集重量：61．8kg
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	○ごみを拾うことで地域の良好な環境づくりに寄与できた。 ○燃えるゴミ、燃えないゴミ、ペットボトル、空き缶、たばこの吸い殻といった種類ごとにゴミを分別し拾うことで、どのゴミが多いかなど地域の環境美化を改めて考える機会を提供できた。 ○小・中学生、親世代、祖父母世代の参加があり、多世代で交流する事業を実施できた。 ○参加者から「以外とゴミが多くびっくりした」「楽しくゴミ拾いをできた」「また参加したい」との声をいただいた。また、「子どもと参加して、ごみの分別教育につながる良い機会だった」との声もいただいた。
備考	

令和５年度

令和6年3月28日

区自治協議会提案事業　事業評価書

江南区自治協議会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	地域課題解決サポートプロジェクト 【事業費予算2,000千円】
事業目的・概要	【目的】 　人口減少対策に向けた各地域でのワークショップの結果を踏まえ、地域の課題解決やコミュニティの維持・向上につながる地域主体の取り組みを支援する。 【概要】 ・区内のコミュニティ協議会を対象に、地域課題の解決やコミュニティの維持・向上につながる取り組みを提案してもらい、委託事業として実施する。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	◎曽野木地区コミュニティ協議会 事業名：愛＆絆　そのき光のページェント 取組概要：曽野木コミュニティセンターにイルミネーションの設置、点灯式の開催　など ◎亀田東小学校区コミュニティ協議会 事業名：袋津祭り次世代への伝統文化継承 取組概要：法被の作成、燈篭及び木遣り披露の際に法被を着用　など
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	○地域の課題を把握している地域コミュニティ協議会が主体的に実施する事業を支援することで、地域の課題解決やコミュニティの維持・向上が図られた。 ○より多くの地域コミュニティ協議会より活用されるよう引き続き事業の周知を図っていく。
備考	

※　令和６年度　江南区事業評価書は令和７年３月中に確定

秋葉区自治協議会（第９期）を振り返って

秋葉区自治協議会会長　中島　純

1　はじめに

第９期秋葉区自治協議会は１号委員 11 名、２号委員８名、３号委員１０名の計 29 名体制で活動を行ってきました。３号委員のうち、公募委員が４名で、４つの常設部会に加えて２つの特別部会（後述）を置き、それぞれ連携し合い、特色ある活動を展開してまいりました。子育て世代の女性委員が複数名いること。また、若い委員に他県又は市外からの移住者が多いこと。学校や子育て支援の現場で活動される委員が複数名いることなどが特徴です。

委員は部会ごとにオレンジ・緑・ピンク色のアキハスムプロジェクト・オリジナルポロシャツを着用し、一体感のある事業を展開してきました。結果として、個々のモチベーションアップとチームの結束がはかられ、明るく、楽しく活動に取り組めたと考えます。

第９期秋葉区自治協議会では、令和５年度にスタートした区ビジョンまちづくり計画をベースにして、「住民主働」のまちづくりに取り組みました。特に、区ビジョンを区内に 11 あるコミュニティに落とし込み、地域課題の解決と持続可能なまちづくりに向けて未来図を描く「コミュニティ未来ビジョン」に着手できたことは、大きな成果でした。その過程で、まちづくりプレイヤーの人材発掘と人的資源のネットワークを構築できたことも収穫でした。

各コミュニティでは、未来ビジョン実現に向けたアクションプランがすでに始まっています。未来を担うこども・若者らに“たすき”を渡し、夢と希望に満ちた秋葉区になるよう、新たな協働のステージに大きな一歩を踏み出した第９期となりました。

2　取組内容・成果・課題

(1)　全体会について

ア　定例会議

毎月の定例会議では活発に意見が交わされ、熱を帯びた充実した議論を重ねることができました。ただ、発言する人にやや偏りが見られ、少数意見をしっかりカバーできたとは言い切れない点は、会議運営の課題となりました。開会のあいさつを、各回委員の方にしてもらうなどの試みやワークショップスタイルの意見交換会は、今後も継続していきたいと考えます。また、これまで通り年に数回は各地区のコミュニティセンターを巡回する形で会議を行うことにより、秋葉区の多様な資源や地区ごとの取組を意識した議論につなげることができました。

イ　委員研修会

令和５年度の委員研修会では、“こども真ん中の秋葉区づくり”と絡めて、荻川地区にある放課後児童クラブ「ディンプルアイランドあおぞら」の視察と新津高校の探求学習発表会への参加プログラムを実施しました。いずれも、秋葉区自治協議会委員が関わりを持つ事業であり、現場当事者の目線で、子ども・若者の居場所のあり方を考えるよいきっかけとなりました。

令和６年度の委員研修会では、ＮＰＯ法人まちづくり学校の役員で、西区自治協議会第 3 部会長でおられる山賀昌子さんを講師に、「若者力を活かした西区自治協議会の取り組みについて」をテーマとする講演と交流セッションを行いました。子ども・若者の参画、次世代の担い手育成に秋葉区自治協議会はいかに取り組むべきか、第 10 期に向けて参考となる指針と示唆を得ることのできた意義のある研修となりました。

(2)　部会・提案事業について

ア　第 1 部会

第 1 部会は、環境、産業、観光、商店街の活性化を所管する部会です。

これらをテーマとしたまちづくりを推進するため、第８期に引き続き「きらめきサポートプロジェクト」を行いました。住民からの具体的な事業提案を公募して区自治協議会が協働することで、地域の人財を発掘するとともに活動の進展をサポートしてきました。第９期では令和５年度に５つの事業、令和６年度に３つの事業を採択・実施しました。子どもから大人まで楽しめるファミリーコンサートや、大学生の発案で高校生や地元住民と出会い、秋葉区の魅力を再発見する交流イベントを開催しました。

次世代のまちづくりプレイヤー育成を目指す「若人塾」では、令和６年度に秋葉区内の高校生や大学生らと地元住民とが交流しつつ探究的な学びを体験するイベントが２回開催されました。

令和６年度は、部会内に未来ビジョン部門を置き、区内コミュニティ協議会からの事業提案について、事業実施に向けた助言や連絡調整などを行ないました。同年夏、新津地域交流センターに新しく中高生・若者の居場所がオープンしました。これは、令和５年度、新津中央コミュニティ協議会にて開催された未来ビジョン会議で、地元学生から出されたアクションプランを実現させたものです。「SECOND HOUSE」と名付けられた、この中高生・若者の居場所には、実行委員会が組織され、新津高校の生徒のほかに新津第一中学校の生徒、大学生も加わりました。今後、区内の他の地区でも、こども・若者の居場所づくりが取り組まれると予想されますが、さきがけのモデルとなることでしょう。

イ　第２部会

第２部会は、防犯・防災、健康、福祉、住環境を所管する部会です。

第９期では、区バス等公共交通の利用促進に向けた施策と防災講演会を開催し、地域ごとの課題やその対応策について、共通理解を深める機会を設けました。令和５年度は、関川村の水害に際して避難の陣頭指揮を取った当事者を講師に迎え講演会を行ないました。令和６年度は、阿賀野川河川事務所職員による「河川洪水の備え」の防災講演会、中越地震被災地と記念館を巡る研修バスツアーを実施しました。バスツアーには区自治協議会委員以外にもコミュニティ協議会の関係者や小さなお子様の参加がありました。また、公共交通では、令和５年度に路線バスの金津線や下新線の利用促進について検討を重ね、路線変更やバス停の移設などを行い、令和６年度の利用者増加につながりました。

ウ　第３部会

第３部会は、令和５年度に成人向けに秋葉区の魅力を体感するプログラムを盛り込んだ「Akiha おとな大学」“花とみどりの講演会”を実施しました。県立植物園友の会事務局長の講演のほか、新津高校理科部の生徒さんによる絶滅危惧種ヒゴスミレの保護活動の報告を行ないました。令和６年度は、菩提寺山ハイキングコースを座学で体験する勉強会を開催しました。また、秋葉産もち麦をＰＲすべく、区の総合体育館で催された「にいがた秋葉っ子ふゆまつり」で「もち麦フェスタ」を実施し、オリジナルのもち麦の歌と踊り、紙芝居やクイズを披露して来場者に喜ばれました。

エ　広報部会

広報部会は、上記３つの部会を横断的につなぎ、区自治協議会の活動と秋葉区の魅力を発信することを担う部会です。具体的には、地域に根差したコミュニティＦＭを活用し、毎月第２水曜日（再放送第２土曜日）の広報番組「あきはくはつものがたり」の制作と委員自らの出演、２年間で数多くのスポットＣＭの放送を行いました。番組は区自治協議会委員へのインタビューを内容としていた第８期までとはスタイルを変え、出演する複数の区自治協議会委員が掛け合いのトークで、区自治協議会の活動や秋葉区の魅力を発信する、地域密着情報番組として展開しました。また、秋葉区自治協議会かわら版「あきはくはつものがたり」を編集・発行しました。これらに加えて区のＨＰにて秋葉区自治協議会に関するコンテンツの作成にも取り組み情報発信に努めました。

オ　コミュニティ未来ビジョン部会（特別部会：令和 5 年度のみ）

コミュニティ未来ビジョンは、秋葉区内に 11 あるコミュニティ協議会ごとに、5 年後、10 年後の未来図を創造しようとするプロジェクトです。５年後、10 年後を見据えて、地域の課題を解決し、持続可能なコミュニティづくりを、区自治協議会が全体コーディネートし、コミュニティ協議会がナビゲートし、区自治協議会、コミュニティ協議会、行政三者共同で取り組む事業です。令和５年度は７月から１２月にかけてコミュニティ協議会ごとに３回のワークショップを開催しました。これには、小中学生・高校生・大学生といった若者や、学校教職員・ＰＴＡ・子育て中の親・自営業者・福祉関係者・会社経営者など多様な参加者が集いました。令和５年度に設けられた当部会では、第１部会の委員の他に、区自治協議会会長、副会長がメンバーに加わり、各コミュニティ協議会で作成されたアクションプランの実行に向けた連絡調整を行いました。令和６年度に秋葉区文化会館で開催された「秋葉区感謝のつどい」での発表会では、１１のコミュニティ協議会から各地域のプランについて報告がなされました。

カ　ひな・お宝めぐり部会（特別部会）

平成 28 年度から「きらめきサポートプロジェクト」の一環として小須戸コミュニティ協議会エリアおよび新津中央コミュニティ協議会エリアで実施していた「ひなとお宝めぐり」が拡大をみせ、令和３年度から「秋葉区ひな・お宝めぐり」の名称となり、区内の全域を対象としたイベントとして実施しました。令和５年度はいっそう多くの個人・団体からの参画を得て、秋葉区民の一体感を醸成し、大盛況の内に終えることができました。こうした経緯から、「ひな・お宝めぐり」は秋葉区の初春を彩る季節行事として定着した観があります。ただし、本イベントは令和６年度の開催を以て、秋葉区自治協提案事業としての実施は終了となります。次年度以降は、コミュニティ協議会に委ねるなり、実行委員会方式で運営するなりして、各地域で受け継がれていくよう働きかけていきます。

以上に記載の通り、秋葉区自治協議会では各部会が連携し合いながら役割分担をし、明確な目標を掲げて活発な活動を展開してきました。各々の事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3　おわりに

新潟市に区自治協議会が誕生して、令和７年度に２０年目を迎えます。秋葉区自治協議会でも、長きにわたる活動によって独自の文化が形成されてきました。

その一つが懇親会です。夏の暑気払い、年の瀬の忘年会、年度終わりの送別会の他に、秋葉区選出市議会議員との交流会や、女子会などを開催しました。こうした、飲食を介したインフォーマルな催しが、区自治協議会と行政職員、委員と委員、人と人の垣根を取り払い、コミュニケーションを円滑にする機能を果たしてきたことは確かです。元気なまちづくりは、元気な人づくりから。そして、元気な人づくりは豊かなコミュニケーションによりもたらされます。こうした文化を第 10 期においても引き継いで行こうと思います。

第 10 期に向けた秋葉区自治協議会のあり方を考えた時に、現在と未来の時をつなぐ視座を持つことは大切です。現代課題の解決は、未来への準備へとつながります。たとえば、空き家、空き店舗、耕作放棄地の課題解決は、若者の移住、定住、起業の促進と結びつきます。いま、目の前にある地域課題に取り組むことは、将来の展望をつくりだす機会となります。その意味で、区自治協議会には、もっと若い委員が多くてよいですし、子ども・若者の当事者の思いや要望をくみ上げる組織として、区自治協議会は機能すべきと考えます。10 代、20 代の学生さんが委員にいてもよい。第 10 期の自治協議会は、いっそう未来志向の組織に変わるべきです。人材育成・開発の役割をより積極的に担うべきであると思います。

秋葉区自治協議会には、実に多様で多彩なプレイヤーが集まってきています。一人ひとりの委員のポテンシャルが、さらに活かされる組織へと発展するよう、第 10 期に引継いでいこうと考えます。

令和５年度

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会
第1部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	きらめきサポートプロジェクト 【事業費予算　1,630千円】
事業目的・概要	地域コミュニティの活性化や福祉、防災、文化振興など、様々な地域課題の解決につながる取り組みを地域の団体と協働で実施し、「きらめく秋葉区」に向けたまちづくりを目指す。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	(1)小須戸まちなか演奏会～町屋とお寺と灯りと音楽～ 【小須戸コミュニティ協議会】 ・会議：7/18 ・イベント：10/14 会場：小須戸本町通周辺 内容：演奏会、竹灯籠、行灯ライトアップ。小須戸中学吹奏楽部のほか、様々な奏者が参加。 （2）第1回聞き書き養成講座ー国鉄と茶畑の歴史・文化を発掘するー 【NPO法人　はぐハグ】 ・会議：9/15 ・イベント：12/10、1/14、2/28 会場：新津図書館 参加人数：延べ12名 内容：参加者とともに国鉄と茶畑について地域の語り部から情報収集し、冊子にまとめた。 （3）アキハファミリーショー～AKIHA FUJIN ROCKFESTIVAL × DREAPYS～ 【秋葉区ファミリーショー実行委員会】 ・会議　8/9、11/24、1/25、2/20 ・リハーサル　12/28、1/21、2/10、2/25、2/27、3/2、3/7 ・イベント　3/10　参加人数：552名 参加人数：552名 会場：秋葉区文化会館 内容：音楽ライブ、しゃぼん玉ショー、マジックショー、キッズダンス、ワークショップ。応募の小学生もキャスト・スタッフで参加。 （4）秋葉湖周辺案内地図設置事業 【新津中央コミュニティ協議会】 ・会議：8/23 10/25 11/29 12/26 1/31 ・内容：案内地図設置（トリムコースや遊歩道なども表示 2000×1500mm　） （5）チョイ戦～「秋葉区」との出会いを通じて自分を知る～ 【チョイ戦】 ・会議:8/22 ・フリースペース開催：10月～1月の週2回 　利用人数：10名 会場：新津駅前「灯心文庫」 内容：フリースペースで高校生・大学生と交流。 ・チョイ戦交流会：2/3 　参加人数：15名 会場：新津健康センター 内容：参加者とワークショップを行い、アイデアの共有。

（次頁に続く）

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会
第1部会

事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【個別事業】 （1）小須戸まちなか演奏会～町屋とお寺と灯りと音楽～ コロナ後に再び地域を活性化させようと、多くの団体・個人が参加し作りあげた。当日は会場に入りきれない人が出るほどに賑わい、小須戸の町中に癒しの音色と賑わいを創出できた。完成度が高い一方、自治協議会との協働のあり方について課題が残った。 （2）第1回聞き書き養成講座ー国鉄と茶畑の歴史・文化を発掘するー 国鉄と茶畑に関わる人々の話を集め、冊子にまとめることができた。講師を含め、参加者同士のネットワークを深め、語り手の方々にも喜んでもらえ。さらに、5名の参加者が聞き書きの技術を学び、習得することができた。 （3）アキハファミリーショー ― AKIHA FUJIN ROCKFESTIVAL × DREAPYS 秋葉区の特産品であるもち麦をPRするための「もち麦の歌」の披露や自治協議会の活動紹介、ブースの設置などを行い、もち麦と自治協議会の認知度向上に大きく貢献した。また、きらめきサポートプロジェクトを通じずに、入場料を徴収することで継続可能な可能性を感じることができた。 （4）秋葉湖周辺案内看板設置事業 秋葉湖周辺でのキャンプやマウンテンバイクの訪問者増加に伴い、より快適な利用と地域の魅力を伝えるため、関係者との密な打合せを行った。行政手続きに難航した場面もあったが、無事看板を設置することができた。 （5）チョイ戦～「秋葉区」との出会いを通じて自分を知る～ 子どもと大人のつながりや世代間のアイデア共有を促進することを目的として、地域と若者を繋ぎ、地域で活躍できるサポートを行った。現役大学生が、自主的に「きらめきサポートプロジェクト」のことを知り、応募し、大学生ならではの発想で、他の高校生、大学生が地域で活動するきっかけを作ったことは、大きな成果であった。 【全体を通して】 ・自治協議会との協働に関して、何が協働となるかが自治協議会にも提案者にも理解しにくい状況であった。来年度以降は、さらに分かりやすく例示する必要がある。 ・提案者との意見交換ができるのは二次審査会のみであり、落選した提案の中にも改善されればより良い取り組みになるものがあった。審査前に意見交換できる場を設けること、また提案書の作成や予算の使い方に不慣れな団体に対して、育成の観点からサポートを行いたいと考えている。
備考	

令和５年度

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会
第2部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	交通　（生活交通支援／公共交通利用促進）・　防災（防災講演会） 【事業費予算　300千円】
事業目的・概要	【交通】 「秋葉区生活交通改善プラン」に基づき、地域の生活交通支援事業の検証と課題改善の支援をしていき持続可能な事業にしていく。また、区内の公共交通利用促進を図るための情報を発信していく。 【防災】 防災に関する講演会を開催することで、災害時の人的被害の軽減につなげられるよう、区内の防災意識の高揚を図る。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	【交通】生活交通支援／公共交通利用促進 ①7月3日（金）　令和5年3月から本格実施した満日地区生活交通についての振り返りを運行主体である満日コミュニティ協議会、満日地区福祉施設、秋葉区社会福祉協議会で実施。 ②9月22日（金）　区バス乗車体験、小須戸まちづくりセンターで、区長と公共交通について勉強会を実施。 ③11月30日（木）　金津地区コミュニティセンターにおいて、都市交通政策課職員による金津線についての勉強会を実施。 ④12月26日（火）　都市交通政策課職員による路線バス金津線についてアンケートの内容を検討。公共交通ガイド検討。 ⑤1月30日（火）　公共交通ガイド検討 ⑥3月29日（金）　公共交通ガイド発行 【防災】防災講演会 〇日時：令和5年10月15日（日）13:30～15:00 〇会場：秋葉区文化会館大ホール 〇内容 ・第1部：防災講演「災害に対する自治会長の心構え」 （講師　岩船郡関川村高田集落区長　須貝秀夫氏　須貝早苗氏） ・第2部：歌いながら防災活動を盛り上げよう （講師　新潟県防犯アドバイザー　中村嘉紀氏） 〇聴衆　約150名
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【交通】 〇生活交通支援の要は、地域のニーズや実態の把握が先決である。今回の勉強会やアンケートについては的を得た作業で、収支率が低い路線である「金津線」の改善に第1歩を踏み込むことができ良好であった。 〇公共交通ガイドについては、文字の大きさ、配色などを子細に検討し、高齢者にも利用できるように分かりやすく作成した。 〇満日の生活支援について、満日コミュニティ協議会と地域内の福祉施設と協働で買い物支援事業を月2回実施。利用者から大変喜ばれている。自治協議会第2部会は相談等あったら随時支援していく。 【防災】 〇被災された女性の体験を聴くことのできる講演会はめずらしく、また、一方的な講演ではなく対談方式により企画者の依頼に応じて、分かり易く、被災当時の生々しい体験を語ってくれたので、聴衆者から心に響いたなど労いと称賛の声が聞かれ良好であった。 〇防災は一人一人の正しい行動が大切で、今後も継続的に防災活動を行う必要がある。
備考	〇能登半島地震に関連して、佐渡沖に地震が頻発しており、また、令和6年度は新潟地震から60年、中越地震から20年の節目となることから、防災対応の事業を第2部会の重点事業として取り組む。

様式

令和５年度

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会（第3部会）

区　分	内　　容
テーマ・事業名	Akiha　おとな大学 【事業費予算　　200千円】
事業目的・概要	秋葉区の特色や史跡・旧跡、魅力ある歴史などを学んでもらうことで地域への愛着や興味関心をさらに高めるとともに、学びを次世代に引き継ぎ、未来へつなげる機会とする。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	【もち麦cooking～パン作り教室】 会場：小須戸地区ふれあい会館調理室 実施日：令和6年2月16日（金）12：30～16：00 講師：親和福祉会　ぶどう工房 参加者数：13名（16名出席予定　当日欠席3名） リハーサル：令和5年12月8日(金)14：00～ 【花とみどりの講演会：秋葉区は植物の宝庫「身近な植物を楽しもう」】 会場：秋葉区文化会館 実施日：令和6年1月14日（日） 講師：伊藤泰師 氏（新潟県立植物園友の会事務局長） 協力：新津高校生 参加者数：100名
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【評価】 ①もち麦cooking ・13名中4名がもち麦を知らなかったが、半数以上が知っていることが明らかに。 ・告知後すぐに満席となり、区民の高い関心とニーズがあることが判った。 ・「親和福祉会ぶどう工房」から全面的な支援をいただき、パン成形5種類の指導や一次発酵までの工程の実演を効率よく実施。 ・リハーサルを設けたことで問題点を把握し、当日の流れがスムーズに。 ・会場の小須戸地区ふれあい会館は、パン成型やお茶会の場として参加者から高評価。 ・帰りにもち麦と関連レシピをお土産に渡し、もち麦への理解を深めることができた。 ・もち麦の効果効能の説明をフィリップで行い、もち麦普及のアピールに繋がった。
	②花とみどりの講演会 本講演会は、高齢者を中心に応募者が多かったが、植物園友の会や高校生など多様な年齢層から参加があり、地域の自然保護や植物への関心を高める良い機会として高く評価された。特に新津高校生徒による絶滅危惧種の保全活動の事例発表が参加者の興味を強く引き、満足度は93%に達しました。一方、幅広い講演内容に期待感があるなか、初心者向けの内容にやや物足りないとの声もありました。
	【今後への提案】 ①もち麦cooking ・もち麦を使用したお料理教室の開催提案（スープなど工程の少ないものから）。 ・もち麦キャラクター「もちもち麦太郎」の着ぐるみグッズ制作。イベントで「もち麦の歌」を流しアピール。 ・防災食としてのもち麦の使用法を提案するなど、防災意識の高まりに合わせた活動。 ・アキハスムプロジェクトのHPでのもち麦キャラクター、歌、ダンス、レシピ、動画などを掲載。 ・より簡単で40代以上に受け入れられる調理方法の開発。 ・男性の参加を増やすための工夫（開催日時、参加枠の設定など）。 ・山の手地区を「もち麦の里」と位置づけ消費拡大、関連事業に繋げてはどうか

（次頁に続く）

	②花とみどりの講演会 ・講演内容をオンラインで提供し、より多くの人たちへ関心を持ってもらう。 ・身近な植物やヒゴスミレ保護活動を中心としたトレッキングの企画。 ・「Akihaおとな大学」の対象年齢層を明確にし、情報提供をSNSやウェブサイトを通じて強化する。自治協の認知向上のために広報活動の見直し。 ・他部署や企業との連携を深め、地域の歴史を含めた多様なテーマによる活動を計画。 ・講演後の質問時間の設定や複数講師による多角的な視点からの提供を検討。
	【課題】 ①もち麦cooking ・もち麦の価格が高く感じることが障壁となっている。 ・健康面、美容面でのアピールや、商品開発のため、企業や学生を巻き込むことが必要。 ・男性の参加推進。 ・大量消費に繋がる民間食品関連事業者との事業展開の重要性。 ・インフルエンサーやキャラクターを活用した大規模なプロモーションの検討。 ・「もち麦の歌」の活用や、効果効能を説明するフィリップの作成などアピールについて課題が残る。
	②花とみどりの講演会 ・歴史テーマには関心が高かったものの、異なるテーマに対する要望もあり、情報の蓄積が重要。 ・植物園友の会の活動PRが長すぎたとの指摘があり、タイムスケジュールの工夫、受講者を増やす広報手段の改善や自治協の認知度向上が課題。 ・次年度トレッキング企画では、具体的な計画や雨天対策も含めた準備が必要。 ・次世代に区の魅力を伝え、また自治協の知名度向上や区のイベントとしての発展を目指すためには、若者から子育て世代まで幅広い年齢層が参加できる魅力的な講座が必要。
備考	

令和５年度

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会
（広報部会）

区　分	内　　容
テーマ・事業名	コミュニティFMを活用した秋葉区自治協議会PR事業 【事業費予算　800千円】
事業目的・概要	自治協議会の活動を自治協議会かわら版「あきはくはつものがたり」の発行 FM新津を利用して、スポットCM・FM版「あきはくはつものがたり」番組放送 秋葉区役所ホームページ利用して自治協・まちづくり活動のレポート記事の掲載により自治協議会活動のPRを行う。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	■FM版「あきはくはつものがたり」 毎月第2水曜日の12時00分から30分番組の放送 （再放送は同じ週の土曜日9時から） ■スポットCMの放送 8～3月：合計放送本数250本 ■かわら版「あきはくはつものがたり」を活用したPR　2号/年（運営事業費） 第33号：R5.9.3発行、第34号：R6.3.17発行 第33号は約21,500部、第34号は約21,000部発行し、新聞折込および個別配送のほか、公共施設等に配置 ■区役所ホームページ 広報部員による自治協議会提案事業等のレポート掲載
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	**■コミュニティFMの活用** 〇区民にとって身近なコミュニティFMを使っての情報発信は自治協議会の活動を伝えるためには有効な手段であると思う。 〇自治協議会活動PR事業として、年間12回（再放送を含め24回）のFM放送トーク番組を行ったが、今後も継続すべきと思う。 〇スポットCM直近の事業PR継続が必要。 〇それなりの成果・効果はあったものと推察するが、どれだけの方がその放送を聴取したのか。 〇トーク番組や、自治協議会の認知度をさらに高める必要があると感じた。 〇今後FM新津との打合せの際、出演者の個性が出るように、例えば、委員同士がかけ合いでトークができるように、親しみを覚える進行台本の工夫、また、提案事業の参加者にインタビューしてライブ感を演出する工夫が必要ではないか。 **■かわら版「あきはくはつものがたり」の発行** 〇自治協議会の活動や地域への情報発信を定期的に続けることができたこと、その発信を通じて、イベント等に参加していただく方々がたくさんいらっしゃったことについては、今年度の広報部会の活動が充実していたといえるのではと感じている。 〇新聞折り込みや個別配送などによる区内世帯への発送により、この紙媒体による広報紙としての認知度はかなり高いことが伺えた。 〇電子媒体に慣れていない人にとっては、紙媒体の「かわら版」が効果的だと思う。 〇作成プロセスにおいてより見易く自治協議会の活動内容が伝わるような紙面作りにやりがいをもって取り組むことができた。 〇形に残る、読み返しができるのは、一過性にならず魅力だと思う。 〇最近の新聞離れの中、申込で「市報にいがた」と一緒に、自宅に届くシステムがあることを知ってほしいと思う。 〇この発行は継続していく必要を感じており、自治協議会の活動のPRに参加された一般の方々の声や活動風景をもっと掲載しても良いのではないかと思う。 〇4コマ漫画も取り入れることで読者が楽しむこともできるため、続けたい。

（次頁に続く）

	■秋葉区役所ホームページ利用による自治協活動等のレポート掲載 〇初めての取り組みであり、広報部員のレポートが基本になるが、委員の協力と参加者の声等により、取り組み強化とホームページの掲載の方法を再考したい。 **■全体を通して** 〇FM 版とかわら版「あきはくはつものがたり」の作成、秋葉区ホームページに取り組むも効果がどうか、掲載内容、特に参加者の声、委員の個性等を再考してライブ感を出したい。 〇自治協議会の存在を知ってもらうため、皆さんでおそろいのポロシャツで「にいつ夏まつり」の「新津松坂流し」に参加した。 〇若い世代、次世代の方々に発信していく媒体について、検討する必要があるように感じる。 〇SNSや映像媒体を使った広報も検討したい。 〇トーク番組については、認知度をあげ、自治協議会を広報するために、内容、手立てを考えたい。（反応を求めるなど、まずは状況を把握する方法を検討したい。） 〇読者の増加や読むまでの気軽さを求めることも必要。 〇広報委員の皆様の努力で、しっかりPR出来たのではないか。
備考	

令和５年度

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会
ひな・お宝めぐり部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	秋葉区ひな・お宝めぐり 【事業費予算560千円】
事業目的・概要	【事業目的】 秋葉区全域で「ひな・お宝めぐり」を実施することで、各コミ協、商店街の活性化を図るとともに、区内はもとより区外からの人の流れを生み出す。秋葉区の新春行事として育てたい。 【概要】 区全体が関わって秋葉区を盛り上げるような祭りとなるよう、各コミ協や秋葉区の施設・団体など区民誰でも気軽に参加できるような取り組みを検討する。（吊るし雛飾りの制作募集、吊るし雛飾りの展示施設・企業・店舗募集など）
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	○5月　1号委員と希望委員、計16名による横断的な特別部会としてメンバーが決定 ○8月　第1回部会を開催し、部会長・副部会長を決定 ○月　「つるし飾り」の制作協力を各コミ協から呼びかけてもらい、参加団体を募集 ○11月～12月　「つるし飾り」制作説明会・講習会を、各コミ協、地域の茶の間等地域主催で実施 ○1月　区内165の団体、個人参加20人から約310個の「つるし飾り」が集まる ○2月～3月　ひな・お宝めぐり開催 ■つるし飾りの展示（185団体（個人含む）　308基） ・新津地域交流センター　54団体78基 ・荻川コミュニティセンター　18団体30基 ・新関コミュニティセンター　10団体20基 ・小合地区コミュニティセンター　13団体13基 ・金津地区コミュニティセンター　13団体13基 ・小須戸まちづくりセンター　45団体、個人20名87基 ・小須戸地区ふれあい会館　7団体21基 ・その他（花の湯館29 、新津育ちの森3、新津健康センター9、区役所5、薬科大学、区バス）
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	**【評価】** ・参加団体数、つるし飾りの展示数など前年度に比べて増加していることは、区民からの広い支持がこの事業を支えていることがうかがえる。 ・子供から高齢者が楽しみながら丹精込めて作るつるし飾りはかなりの手間と時間を要するが、その過程で生まれる連帯感は生きがいに通じてこの事業の価値のひとつである。 ・幼児童の作品づくりは、子供達の間だけでなく家庭内のコミュニケーション、身近な町内での話題づくりにもなっていることから今後の事業継続に繋がる大事な部分である。 ・参加協力団体の皆さんや保育園児が展示会場に見学に来てくれる、この時期の恒例事業となっているのでぜひ続けていきたい事業である。 ・区全体で一つのテーマに取り組むことは、地域全体を盛り上げる意味でよいことだ。 ・地域の絆をより強くして、地域の活性化に大きく貢献したので今後もコミ協の事業として継続したい。 ・部会員同士のチームワークや、部会員と事務局との連携が図られ、充実した活動ができた。

（次頁に続く）

	【課題・今後への提案】 ・「お宝めぐり」「商店街の活性化」の目標達成に向けて、商工会議所、商工会と商店街とコミ協一体となった事業にしていくためにも、部会のメンバーに商工会議所等まちづくりに関わりのある自治協議会委員を巻き込んで活動していきたい。 ・いつまで自治協の提案事業としておくのか、部会員だけではなく、この事業の継続を丁寧に検討する必要がある。あるコミ協では、展示会場へ来ることが困難な方への送迎支援を試みている。それぞれの11コミ協が地域の課題解決に向けた情報を共有して、更なる地域の活性化に貢献できる事業として継続していきたい。
備考	

令和５年度

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会

コミュニティ未来ビジョン部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	コミュニティ未来ビジョン策定支援事業 【事業費予算　4，150千円】
事業目的・概要	秋葉区コミュニティ協議会単位での地域未来ビジョンの策定を支援し、地域経営の強化を図る
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	【未来ビジョン策定】 7月から12月の間、11の地域コミュニティ協議会で3回のワークショップ、座談会を開催しアクションプラン策定 【未来ビジョン全体発表会】 日　　時　　2月4日（日） 会　　場　　秋葉区文化会館 秋葉区感謝の集い第2部として、未来ビジョン全体発表会を開催し、各コミ協代表による成果発表
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	5年後、10年後を見据えて、持続可能なコミュニティづくりを、自治協が全体コーディネートし、コミ協がナビゲートし、「区民主動」で構築していくところに本事業の意義がある。同じ秋葉区内であっても、地域の人口、環境、資源はさまざまであり、ただし区ビジョンだけでは、残念ながらこうした地域差を丁寧にすくい上げられない限界がある。 以下、各部会員が指摘するように、本事業に取組むことで、〈異業種・異世代交流と連携〉〈地域人材の発掘とネットワーク構築〉という点で大きな収穫を得られたとものと評価できる。今後、まとめられた行動計画を実行に移していくためには、資金とマンパワーの確保が課題となる。「コミ協単独で取り組めるもの」「他地区との連携・協働が必要なもの」「区全体で取り組むもの」「市として取り組むもの」と切り分けをおこない、優先順位をつけてロードマップに落とし込む。そうした作業が求められる。 ことに資金面は大きな課題である。各コミ協で、実に多くの事業が提案されたが、経費の算定とその確保、調達を支援する仕組みを提示しなければならない。すべてを「行政頼み」としない前提で、捻出策を提示することが今後の課題となる。 令和6年度おいては、これらの現実的諸課題を、区や市といった行政サイドと念入りに協議しながら、自治協で継続的に検討し、前進させていきたい。秋葉区自治協と区行政の“知恵を出し合う協働”がまさに求められる。 ・想像していた以上に、各コミ協がそれぞれに地域力を高めたい気運を感じ取ることができたことを評価したい。これからのアクションプランを実行していく際に、秋葉区地域福祉計画が上位計画であることも視野に入れて取り組んでもらえるとよいと考える。 ・一つには、当面する地域の課題解決に、的確に対応した事業で、地域間の連携の構築強化につながる良好な事業であること。二つ目に、参加者は過去の枠にとらわれない活発な議論や、未来ビジョン策定会議の広報により、これまで自治会活動に関心のなかった人たちにも、地域活動に対する意識を高めることができたこと。

（次頁に続く）

	地域と行政が一体になっての事業推進であり、今後大きい成果が期待できる。三つめに、全体発表会では高校生を起用し、わかりやすく丁寧な発表をおこなったことから、観覧者から好感を得ることができたことである。今後も幅広い世代を取り入れて、地域住民の信頼と期待に応える地域づくりのため、事業を継続していく。 ・ 秋葉区11あるコミュニティ協議会のすべてがビジョン策定に取り組んだことで、各地域が現状を直視しながら、近未来への展望を語り合う機会となったことは高く評価できる。また、若者たちの参加が多くなったことは、本事業の目的に沿う結果を示しており、若者たちのふるさとへの愛着心の低下という課題を見直すキッカケ作りの展望も見えてきた。 ・ 当初、進め方を含めて大きな不安があったが、他地区のワークショップへの参加を重ねるごとに地元開催の方向性が定まっていった。コミ協区にある小・中学校(計3校)には事前に打ち合わせをおこない、また、学校ごとにクラスで相談がなされた。3回にわたるワークショップでは、ふるさとに対する意見がリードするかたちで進行した。結果、6項目からなるアクションプランにまとまった。今後はその実現に向けて、このコミュニティ未来ビジョンの取組を通して築かれた関係を大切にしていきたい。課題としては、一つには今後の予算措置について、二つ目には(株)パッチワークAKIHAとの今後の対応がある。費用の点も含めて地域総務課で一括して対応していただきたい。 ・ 各コミ協単位で地域の多年齢層の住民から、地域ごとの未来への希望や意見を集約したという点で、たいへん意義のある取り組みだったと感じた。全11コミ協が3回に分けて継続的にワークショップを開いた事に敬意を表する。小・中・高・大学生などの若者たちを中心に据えて「地域の優位点」をあぶりだし、さらに「こうありたい姿」について話しあいを重ね、課題を明確化したこと。これは行政サイドの発想では思いつかない視点からの提起と、住民ならではの切実な要求を可視化することにつながった。今後は、共通項目を整理し区全体の必須課題とコミ協単位で実現可能な項目とに分ける作業が重要と思われる。 ・「5年先、10年先を見据えて」というタイトルのもと、小・中・高校・大学生という年齢層に参加を呼びかけること。特に、小学生の人選には一番苦慮し、結果断念してしまった。しかし、中・高生が頑張ってくれた。若い人も大人に負けず劣らずの考えを持っていると感じられた。課題としては、3回目の開催時期だったと思う。せっかくの「アクション」をまとめる段階で、高校生の参加がなかったのは残念であった。でも、提案には、寄せられたアイデアがしっかり残っている。実現に向けての原動力もある。これらを拡げていくのが次年度での課題である。小さな歩みではあるがスタートしている。失速しないように頑張って行く。 ・ 秋葉区全体で共通のテーマで取組をすることは、地域の活性化という観点からは結構なことだと思う。当地区では、前年度に「地域活性化委員会」を立ち上げて、一定の提案を受けていたので、その具体化を図ることを目的に取り組んだ。自治会長、農業従事者、高校生など様々な分野から28名の参加で3回の会合をもち、6部門7項目のプランが提示された。今後、未来ビジョンで提案された内容を周知するために、「コミ協だより」の特集版を組んで全戸配布することとしている。また来年度以降、プロジェクト委員会ないしワーキンググループを組織して具体化に向けた検討を推進していきたいと考える。その際、これらの実施に当たっての予算の裏付けが必要となる。それが今後の課題である。 ・ コミ協が未来に向けて取り組むべきこととして、「若者の居場所づくり」が課題として示された。新津駅前に立地する地域交流センターの有効活用、かつ、効果的に利用されるようデザインしていくことである。地区だけでなく、秋葉区のシンボルとなることを目指していくことがミッションであると考えている。今後、交流センターにかかわる関係者、コミュニティ未来ビジョンに参加した人たち、特に高校生のような若い人たちを含めたワーキンググループを組織していき、2024年はこのミッション達成に向け取組んでいく。 ・ 座談会を通じ、コミ協の活動が広く認知され、幅広い層が未来について意見交換でき有益な議論が行われた。終了後、次の段階に進むにあたり、専門的なアドバイスがあればスムーズな展開が図れるのではないか。提案として、区と自治協が協力し、コミ協主導の事業展開を支援できる体制が構築できれば、住民参加の活性化が進むと考えられる。課題として、一つには、ビジョンの立案段階で予算算出が漠然としており、行動計画が不十分だったこと。この点は、今後明確にする必要がある。二つ目に、3回の座談会で、行動計画までまとめる時間がなかったこと。この点は、座談会の回数を増やし、具体的な行動計画までできると良かった。その後の予算面での支援があると良い。三つめに、次年度の予算と使途を早期に明確化できると良いことである。

（次頁に続く）

	・各コミ協から提起された地域課題の中で、一番多くのコミ協が示したものを取り上げたため、区内多くの地域で課題となっていると考える。また、1号委員だけでなく、区社協や福祉関連のNPO法人もメンバーとなったことで、より専門的な観点から企画され、自治協の良さを発揮できた。三つのコミ協で、ひとり暮らし高齢者宅を訪問するとしている点は評価できる。また、コミ協委員が訪問することで、ひとり暮らし高齢者の状況を把握でき、孤独を防ぐだけでなく、災害時の対応にも役立ち実効性は高い。交流会についても、地域とのつながりの一助となり、また、幼児との触れ合いで安らぎが得られるものと考える。事業の公益性についてはモデル実施としたため、さほど高いものとはならなかった。事業費については、20万円／協議会で実施でき、地域活動補助金の限度額内であることから、効率性もある程度高いと考える。来年度以降は、ひとり暮らし高齢者に対しては、対象コミ協数を増やし、自治協での成果をコミ協に還元できるよう、区社協やNPO法人などの協力を得て、希望するコミ協すべてで実施できるようにしていきたい。 ・秋葉区内の全コミ協で未来ビジョン会議が実施できたこと自体、大きな成果であった。各コミ協とも参加者に関し苦労したが、小・中・高校生やその親世代、高齢世代等いろんな世代からの参加を得て、それぞれのコミ協の特色ある未来ビジョンの作成ができた。同じ地域に住んでいても、普段顔を合わせることのない人たちと、地域の未来について前向きに話し合えたことは、かつてない経験であり、非常に良かった。今後は、この未来ビジョンの実施について検討し、その実現に向けた計画策定となるが、未来ビジョンを単なる絵に描いた餅としないためにも、今後実現に向けたプロセスをどう描くかがむしろ重要となる。 ・第一に、事業主体として自治協として何が出来たかを整理する必要があると思う。第二に、予算措置について自治協事業としては仕方ないのかもしれないが実際に立案に取り組む各コミ協に対してもっと柔軟に予算措置できなかったか整理する必要がある。（メンバー選定、座談会の実施、実行委員会の立ち上げほか）。第三に、未来ビジョン実現に向けた取り組みと自治協としてのサポート、支援のあり方の整理が必要と思う。
備考	

※　令和６年度　秋葉区事業評価書は令和７年３月中に確定

南区自治協議会（第９期）を振り返って

南区自治協議会会長　髙橋　直廣

1　はじめに

第９期の南区自治協議会は、30 名中 14 名が新しい顔ぶれとなりスタートしました。そのうち女性委員は 13 名で割合が 43.3%となったことも、大きな特徴です。女性の意見を地域課題解決のための議論に取り入れることができました。

南区では、関係課や区自治協議会が特色ある区づくり事業として、多様な取組を行ってきました。３つの部会では、それぞれ知恵と工夫を出し合い、地域課題の解決に向けて取り組みました。令和６年度は３部会合同での事業も実施しました。また、地域団体の取り組む活動を支援する「南区まちづくり活動サポート事業」には、様々な団体から事業の提案があり、区の活性化に向けた事業を実施し、成果をあげていただきました。令和６年度は応募団体が減少したことが残念でしたが、来期は多くの団体からの提案を期待したいところです。

令和６年１月の能登半島地震により、西区を中心に大きな被害がありました。８区の自治協議会も防災をテーマに研修会を行ったり、初期対応に関する広聴会に参加したりするなど、行政任せではない自助、公助、共助のあり方について議論を深めました。このほか、南区区ビジョンまちづくり計画、部活動の地域展開などについても議論をしてまいりました。

行政だけでは、多様な市民課題を解決することは、困難となってきております。南区自治協議会は、市民や市民団体との協働を、より一層推進していかなければならないと考えております。

2　取組内容・成果・課題

(1)　全体会について

ア　会議運営方法の見直し

これまで議事や報告案件がないときは、全体会を休会としていましたが、委員からの報告や意見交換の場として開催してほしいとの意見があったことから、案件がなくても全体会を開催することとしました。また、会議を活性化させるため、フリートークの時間を設け、地域課題について意見交換を行いました。

前期に引き続き、スムーズな会議運営ができるよう、全体会終了後に毎回、会長・副会長の２役と事務局で振り返りの会議を行い、次回以降の会議に活かしました。

イ　「部活動の地域展開」についての協議

「部活動の地域展開」について、令和４年にスポーツ庁・文化庁からガイドラインが公表され、新潟市でも中学校の部活動改革が進められています。これまで中学校主体で行われてきた部活動が地域クラブ活動に移行するにあたり、南区ではどのようなことが課題なのか、教育の分野を所管する第２部会を中心に協議・検討を重ね、令和７年２月に市長及び教育長へ「南区における中学生のための部活動と地域クラブに関する建議書」を提出しました。

ウ　南区自治協議会委員研修会の開催

令和５年度は、「ＳＤＧｓ　ｄｅ　地方創生カードゲーム」という体験参加型の研修を行いました。住民、事業者、行政それぞれの立場や役割を理解し、区自治協議会の活動に活かせる知識を学びました。

令和６年度は、委員間の活発な意見交換を目的に、委員が感じている直近の地域課題について、テーマを募集し意見交換を２回行いました。

⑵　部会・提案事業について

ア　第１部会

第１部会は、公共交通、防犯・防災、環境、建設、都市計画などの分野を所管します。

第９期は「防災意識啓発事業」と「しあわせなまち・きれいなまち美南区クリーンアップ月間事業」に取り組みました。

「防災意識啓発事業」は、日頃からの防災意識を高めるため、第３部会が企画した「南区味わい市場」に防災ブースを出展しました。防災に関するクイズやアンケートを実施し、防災食をプレゼントするなど、多くの人に防災意識を高めてもらうことができました。

「しあわせなまち・きれいなまち美南区クリーンアップ月間事業」は、区民の美化意識の醸成を目的に、南区民や南区で活動する団体が参加する清掃活動を南区全体で実施しました。

また、北陸信越運輸局から講師を招き、「全国における自家用有償運送の成功事例について」講演をしていただいたり、「南区公共交通ガイド」のパンフレットを作成し、区バスなどの周知を行いました。

イ　第 2 部会

第２部会は、健康・医療、福祉、教育、地域、男女共同参画などの分野を所管します。

第９期は「南区家族ふれ愛事業」と「夏休みの宿題サポート事業」に取り組みました。

「南区家族ふれ愛事業」では、家族のつながりを大切にし、温かい家庭をつくることを目的として、11 月を「南区家族ふれ愛月間」と定め、南区内の小学 4 年生による絵画展、中学 1 年生による川柳・標語展を行いました。令和 6 年度は、展示に加え特別企画として「ケチャップ・マヨネーズ」による参加型のファミリーコンサートを開催しました。

「夏休みの宿題サポート事業」は、子育て家庭の負担軽減と世代間交流の場の創出を目的に、夏休みに小学生が学習する場を設け、地域人材とともに見守りを行いました。こどもたちが集中して学習を行うことができ、家庭支援の一助となりました。

また、教育委員会学校支援課から講師を招き、「部活動の地域展開について」勉強会を開催しました。

ウ　第 3 部会

第３部会は、産業、観光、文化・スポーツなどの分野を所管します。

第９期は「南区おいしいもの満載お宝探訪事業」と「産業・伝統・味覚南区３セットツアー」に取り組みました。

「南区おいしいもの満載お宝探訪事業」は、南区の食の魅力発信とまちなかの賑わい創出のため、「南区味わい市場」を六斎市に隣接した左エ門小路で開催しました。令和６年度は３つの部会がブースを出展し、初めて合同で事業を実施しました。

「産業・伝統・味覚南区３セットツアー」は、南区の魅力発信と交流人口の拡大を目的に、南区の企業や文化施設への見学、旬な農産物などを楽しむ日帰りバスツアーを実施しました。ツアー参加者からは「また南区を訪れたい」という感想もあり、南区の魅力を発信できました。

エ　広報部会

広報部会は、広報に関することを所管します。

第９期は「南区自治協議会だより」を各年度３回、計６回発行しました。

区自治協議会や部会の活動、まちづくり活動サポート事業の取組などを紹介し、区自治協議会をより身近に感じてもらえる紙面づくりに努めました。

オ　まちづくり活動サポート事業

南区の活性化を目的に、提案事業の一部を区内の地域活動団体などから募集し、区自治協議会が選定・採択して協働実施する「南区まちづくり活動サポート事業」は、令和５年度は７事業、令和６年度は４事業を採択しました。

令和６年度の事業募集からは、対象経費・非対象経費の例示を記載するなど、応募団体に分かりやすいよう募集要項を改正しましたが、応募団体の減少という課題が残りました。令和７年度に向けて、事業実施の参考とするため過去の応募団体にアンケートを実施し、応募団体が増えるよう努めました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3　おわりに

今期を振り返り、30 名の委員で区の地域課題について、全体会や３つの部会で真剣に議論を重ねてきました。女性委員の割合が増えたことにより、女性の意見も議論に取り入れることができたと考えています。

令和６年１月に発生した能登半島地震により見えてきた課題や問題点、部活動地域展開に伴う南区が持つ課題など、先行きが不明瞭で解決が困難な課題もありますが、委員一人ひとりが真摯に向き合ってきたことが、一定の成果だと感じています。

第 10 期では、新しい体制の中で地域と行政の協働の要として、南区がよりよい地域になるよう、活発に活動されていくことを期待します。

令和５年度

令和6年3月21日

区自治協議会提案事業　事業評価書

南区自治協議会第1部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	◆きれいなまち美南区クリーンアップ月間事業 ◆防災関連イベント事業　　【事業費予算　1,000千円】
事業目的・概要	◆南区民や南区で活動する団体を対象に、清掃意識やモラル向上に繋げることを目的に、強化月間を設けて南区全体で清掃活動を実施する。 ◆日頃防災意識が希薄な人々の防災意識を高めることを目的に、多くの方が来場するイベントに出展し、防災食の試食や防災クイズ等を実施する。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	◆きれいなまち美南区クリーンアップ月間事業 〇南区の各種団体による清掃活動の実施 ■日時：令和5年10月1日（日）～10月31日（火） ■参加団体28団体、申込人数2,175人 ※雨天により2団体が中止 ■南区内の清掃活動の実施 ・区HPやX、区だより以外にも小・中・高校、商工会、地域生活センター、出張所等にチラシを配布し広報を行った。 ◆防災関連イベント事業 〇第3部会主催イベント「南区味わい市場」における防災ブースの出展 防災食の試食品や防災食レシピの配布、防災クイズの実施。新潟防災ナビアプリ、新潟市防災メールの登録方法の案内。 ■日時：令和5年10月14日（土）　午前9時から正午 ■会場：左エ門小路 ■参加人数：派遣防災士　4人　自治協第一部会委員　8人 ■防災ブース来場者(のべ人数)： アンケート回答者　90人、試食　288人、防災クイズ184人、メールおよびアプリ登録者37人
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	◆きれいなまち美南区クリーンアップ月間事業 【評価】 ・例年清掃活動を実施している自治会だけでなく、企業や学校、任意団体など様々な団体から申込みがあった。区民の清掃・美化意識を高めるために一定の効果があった。 【課題及び今後の取組】 ・企業に足を運び事業の趣旨を説明できると、より多くの企業の参加につながるのではないか。 ・年間スケジュールの関係から学校行事とするには課題が多いが、子どものうちから美化意識を啓発するために、子どもたちからも可能な範囲で参加してもらいたい。 ・表彰やポイント制を取り入れると、興味を持ってもらえるためPRもしやすくなるのではないか。 ◆防災関連イベント事業 【評価】 ・第3部会と一緒に事業を実施したことで、協力体制が生まれ相乗効果があった。多くの人が防災ブースを訪れ盛況だった。 ・防災ブースの準備をすることで、委員自身が防災に対する知識を深めることができた。 ・「防災アプリ」や「新潟市防災メール」を登録していった人が予想よりも多かった。「登録したくてもやり方が分からなかった」「やろうと思っていたが、登録するきっかけがなかった」人たちのニーズをつかむことができた。 【課題及び今後の取組】 ・今回はクイズやアプリ登録など広く「防災」をテーマにしたが、テーマを絞ることも一つの方法。 ・防災士会への依頼期間を長めにとり、より広く南区防災士会からの協力を得られるようにしたい。
備考	

令和５年度

令和6年3月21 日

区自治協議会提案事業　事業評価書

南区自治協議会第2部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	◆南区家族ふれ愛事業 ◆夏休みの宿題サポート事業　　【事業費予算　1,000千円】
事業目的・概要	◆南区家族ふれ愛事業の12年目として、児童・生徒の絵画・川柳展を行い、「家族ふれ愛月間」のさらなる定着を図る。 ◆夏休みに子どもたちの学習サポートを行い、子育て家庭の負担軽減を図るとともに、地域の人材を活かし、世代間交流の場とする。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	◆南区家族ふれ愛事業 〇南区「家族ふれ愛月間」絵画展、標語・川柳展の開催 ■日時：令和5年11月1日（水）～11月23日（木・祝）　■会場：白根学習館1、2階　交流広場 絵画展/標語・川柳展　展示総数：648点 ・（絵画）南区内小学校4年生の児童331人から出品があった。 ・（標語・川柳）南区内中学校1年生の生徒317人から出品があった。 ※地区文化祭、地域生活センターで絵画・川柳展示 展示箇所：庄瀬、小林、臼井、大通地区 ◆夏休みの宿題サポート事業 〇「みんなで宿題！3days～ハッピー夏休み♪～」の開催 ■日時：令和5年7月24日（月）～26日（水）　午前9時30分から10時30分 ■会場：白根児童センター 参加者：児童　延51人（24日：15人　25日：16人　26日：13人） ボランティア　延13人（24日：4人　25日：3人　26日：3人） ・小学生を対象に各日20人、保護者や子育てサークルからボランティアを募集し実施。学習終了後にはお楽しみのくじ引きも行った。
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	◆南区家族ふれ愛事業 【評価】 〇南区「家族ふれ愛月間」絵画展、標語・川柳展 ・多数の出品があり、恒例の事業として学校側にも定着してきている。 ・展示が1階、2階に分かれたため、全て見るのは難しかった。 ・委員の考えたオリジナルな賞名はアンケートからも好評だった。 ・アンケートの回答数が14人と少なかった。観覧者数の把握ができない。 【課題及び今後の取組】 ・学校と連携した事業という面ではよいが、作成がスケジュール的に厳しく、締切までの提出が難しいという学校もあり、依頼方法の見直しが必要である。 ・子どもたちの家庭の状況は様々であり、テーマに「家族」という言葉を引き続き使用するか検討する。 ・学習館で一同に作品を展示することにこだわらず、各地域での展示や、さらに展示以外の取組みも含めて再考する。 ◆夏休みの宿題サポート事業 【評価】 ・子どもたちが集中して学習を行うことができ、夏休み生活のリズム作り、家庭支援の一助となった。保護者からはもっとやってほしいという声もあった。 ・参加者募集や申込み受付など、会場となった白根児童センターの協力のもと実施することができた。 【課題及び今後の取組】 ・今回は白根児童センターのみで実施したが、他の地域でも実施を検討していく。 ・ボランティアスタッフとして、どのようなサポートの仕方がよいか戸惑いがあった。方針を決め、事前にスタッフが共通認識を持ったうえで参加してもらう。 ・今回の反省点を活かして当日の運営方法などを見直し、より子どもたちにとって有意義な会となるようブラッシュアップしていく。
備考	

令和５年度

令和6年3月21日

区自治協議会提案事業　事業評価書

南区自治協議会第3部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	◆南区おいしいもの満載お宝探訪事業 ◆産業・伝統・味覚　南区３セットツアー事業　　【事業費予算　1,000千円】
事業目的・概要	◆南区おいしいもの満載お宝探訪事業 ・南区の農産物や特産品などがならぶ「南区味わい市場」を，白根露店市場と同時開催し，南区の味覚と六歳市の魅力を広くPRする。また，まち歩きも併せて行うことで，南区白根の歴史や魅力を再認識してもらう。 ◆産業・伝統・味覚　南区３セットツアー事業 ・南区の企業の見学や文化施設への訪問，さらには南区の農産物を使用した割烹でのお昼ごはんや農産物の食べ歩きなど，区の資源を生かしたツアーを企画し魅力を発信する。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	◆南区おいしいもの満載お宝探訪事業 日時：令和5年10月14日（土）午前9時～正午 場所：白根左エ門小路（南区内） 来場者：960人（推計）　出展ブース数：14団体 推計売上総額：466,000円（アンケート結果より） ◆産業・伝統・味覚　南区３セットツアー事業 日時：令和5年11月20日（月）、11月21日（火）　2日間 9時30分～15時30分 場所：新潟駅～満徳寺～JA新潟かがやき～割烹金長～ 中村観光果樹園～アグリパーク～新潟駅 参加者数：50名（内訳：20日25名、21日25名）
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	◆南区おいしいもの満載お宝探訪事業 ・「南区味わい市場」を白根の六斎市と隣接開催したことで、まちなかの賑わいと地域の魅力を再認識する機会を創出することが出来た。 ・今年度は初の試みとして、他の部会や産業振興課とも連携して取り組み、第一部会による防災ブースの出展や、ゆるキャラ「レルヒさん」を会場に呼ぶなど、催しを充実させることが出来た。 ・味わい市場の商品を500円以上購入でガチャ（カプセルトイ）が回せる企画を出店者から協力を得て実施し、約520名の方がガチャを行うなど来場者からは好評であり、ガチャを回すために再度買物をするなど、購買意欲の向上にも寄与した。 ・昨年に続き、しろね大凧タウンガイドと協働して取り組んだまち歩きは参加者からの評価が高かった。 ・慢性的な駐車場不足や、味わい市場の来場者を六斎市に誘導できるが課題となったことから、次回開催では駐車場不足の解消と六斎市とのコラボ企画、さらなる集客に向けたセレモニーなど、盛り上げる方策を検討していく。 ◆産業・伝統・味覚　南区３セットツアー事業 ・民間のツアーでは行くことのない南区の名所（満徳寺など）を盛り込み、企画したことから、申込数が20日に72人、21日が59人と関心が高く、アンケート結果も好評であったことから南区の魅力を発信出来た。また申込多数となったことは、参加費が5,000円と安価だったことが考えられるため、来年度は市場価格を踏まえた上で料金の検討を行う。 ・果物の魅力発信やツアーにおける自治協議会委員の関わり方が不足していたことから、来年度の開催では、果物が豊富な時期での開催やバスツアーの訪問先の交渉やツアー当日に委員に役割を持たせるなど検討を行っていく。
備考	

令和５年度

令和6年3月21日

区自治協議会提案事業　事業評価書

南区自治協議会（全体会）

区　分	内　　容
テーマ・事業名	南区まちづくり活動サポート事業【事業費予算　2,500千円】
事業目的・概要	地域活動団体や企業と連携を図り、多様な資源や新たな視点によるアイデアを活用して、より効果的な協働による事業展開を図るため、南区区ビジョンまちづくり計画に掲げるさまざまな地域課題の解決につながる取り組みを、1事業につき50万円以内（過去に本事業で実施したことのある場合は30万円以内）で募集して事業委託する。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	本事業は9団体から応募があり、令和5年4月26日（水）に書類選考による一次審査、令和5年5月19日（金）にプレゼンテーションによる二次審査を経て、7団体を採択した。 各団体における事業実績は以下のとおり。 ◆『困ったときはお互い様』ひろがれ人の和・地域の輪 【大郷地区コミュニティ協議会】 地域住民同士が広く顔のみえる（わかる）関係となり、できるだけ多くの人と顔見知りになることを目的に、大鷲小学校児童と地域が協力して、敬老会での演劇や地域食堂を企画・実施することで世代間交流を行った。 ◆地域で守るふるさとの景色と収穫祭 【新飯田コミュニティ協議会】 「新飯田有願の里　おどまつり収穫祭」を新飯田公園ふれあいパーク有願の里公園で令和5年10月21日（土）に開催。小中学生と地域農家が協力して、新飯田地域で収穫された果物や野菜の販売会を実施したほか、ペットボトルライトによるイルミネーション飾り付けを行い、地域の子どもたちと大人の交流の場となった。 ◆あじかた食の歴史ロマン隊 【味方地区コミュニティ協議会】 小、中学生が地元の食材や食文化の魅力について理解を深めることを目的に、野菜の栽培や収穫、新メニューの考案など体験的学習を実施した。小学校ではねぎや大根を使ったお弁当、中学校では地域の代表的な食材「れんこん」をメインとしたオリジナルの「れんこんパスタ」を完成させ、オリジナルメニューのチラシや冊子を作成した。 ◆茨曽根マルシェinサマーフェスティバル2023 【コミュニティ茨曽根】 多世代交流を目的に、地域の方が自分達で考えて出店し参加する「茨曽根マルシェinサマーフェスティバル2023」を令和5年8月19日（土）に開催。 イベント準備から小学生に参加してもらい、イベント当日には販売ブースの店長を勤めてもらい、地域の人と交流を深めるイベントとすることが出来た。 ◆食育を通した「第3の居場所」の提供と「地域のつながりづくり」【大通子ども食堂運営委員会】 「食」を通して、身近に信頼できる大人がいることを地域の子どもたちに知ってもらう目的で子ども食堂を立ち上げ、令和5年8月から令和6年2月までに7回開催した。延べ参加人数は子ども 146人、大人 82人、ボランティア 105人と多様な家族の参加があり、子育て支援の一助とすることが出来た。 ◆温故知新　～愛するまち庄瀬 【庄瀬地域コミュニティ協議会】 地域の商業が賑わいを見せ、活気に満ち溢れていた頃の庄瀬を若い世代に語り継ぐための資料を残すことを目的に、冊子「温故知新～愛するまち庄瀬」を作成した。小学校の授業の一環として子どもたちが地域の高齢者へ取材を行うことで多世代交流の機会となるなど地域で協力して、作り上げることが出来た。 ◆地域ポータルサイト「(仮称)南区ナビ」の制作 【秋は南区！フェスタ実行委員会】 南区のイベント情報や飲食店など、地域情報を広く扱うポータルサイト「みなみナビ」を立ち上げ、サイトの運営を開始した。
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	○　採択されたそれぞれの団体が、地域の魅力を最大限に発信し、南区の活性化につながる個性あふれる事業を展開していた。 ○　区内外のさまざまな地域活動団体や企業が事業の取組みを自治協議会で発表することで、自治協議会委員に事業実施にかかるノウハウや企画に関する新しい視点を共有することができた。

※　令和６年度　南区事業評価書は令和７年３月中に確定

西区自治協議会（第９期）を振り返って

西区自治協議会会長　大谷　一男

１　はじめに

人口減少や少子高齢化が進む中、地域課題は複雑多様化しており、これまで以上に区民や行政と協働し、課題解決のために取り組んでいくことが重要となっています。

今期は、西区自治協議会として重点を置く地域課題「環境美化・防犯」「支え合いの大切さ普及」「区の魅力発信」に取り組みました。また、令和６年能登半島地震を経て、これまで以上に地域住民の防災意識が高まっていることから、「防災」についても取り組みました。

震災の影響により、西区は甚大な被害を受けましたが、区自治協議会の協働の要としての役割を停滞させることの無いように、委員一人ひとりが課題解決に向けたアイデア出しや事業の広報活動等できることを行い、かつ地域活動団体と協働して課題解決に着実に取り組みました。

第１０期の西区自治協議会において、更なる地域課題の解決に取り組んでいただけるよう、第９期の成果や取組をここに報告いたします。

２　取組内容・成果・課題

⑴　本会について

本会における議論活性化及び委員研修会の実施

第９期では、委員全体で活発に議論を行うこと及び、部会の取組とは別に「防災」をテーマとして委員全体で地域の防災力向上に向けて取り組みました。

令和５年度は防災の専門家による区民向けの防災講演会を実施し、令和６年度は防災士の委員が講師となり、委員向けに研修会を実施しました。

研修会では、令和６年１月１日に発災した地震を経て、発災時の避難行動の振り返りや再編集された津波ハザードマップの見方について正しく学び、災害への備えの理解を深めました。また、今後の防災活動の参考とするため、ワークショップ形式で委員同士が意見交換、情報共有を行い、活発な議論を行いました。

(2) 部会・提案事業について

ア 第 1 部会

第１部会は、防犯、防災、自然環境、住環境分野を所管する部会です。

令和５年度は、前期に引き続き「環境美化」をテーマに、ごみのないきれいな西区を目指して活動を行いました。ごみ拾いＳＮＳを活用したイベントの開催や、ごみ拾いを実施している団体の支援を行い、多くの区民に協力していただきながら西区がきれいになるよう取り組みました。

令和６年度は、メインテーマを特殊詐欺と自転車盗難に対する「防犯」、サブテーマを「環境美化」として活動を行いました。特殊詐欺防犯講演会の開催や、高校生と協働で自転車の施錠を呼びかける防犯キャンペーンを実施し、区民の防犯意識向上に向け取り組みました。また、ポイ捨て防止の看板を作成し、希望する地域コミュニティ協議会、自治会・町内会に設置してもらうことで、ポイ捨ての減少を図りました。

イ 第 2 部会

第２部会は、保健・福祉、文化・スポーツ、教育分野を所管する部会です。

第９期では、第８期に引き続き「支え合いの大切さ普及事業」に取り組みました。令和５年度は、第８期の支え合いに関するアンケート及びワークショップでの検討に基づき、あいさつをきっかけに声を掛け合い支え合える地域づくりを目指すための「あいさつ運動」を展開しました。「毎月５のつく日はごあいさつ DAY」をキャッチフレーズに区内の主要な駅で運動を実施し、その周知に努めました。

令和６年度は、この運動を区内に広く展開することを目標とし、駅での運動の回数を増やしました。さらに、活動の周知に協力を申し出てくれた団体へのぼり旗やポスターを配布したり、イオンの店舗でも運動を実施したりし、周知に積極的に取り組みました。

ウ 第 3 部会

第３部会は、産業、区の魅力発信、交通分野を所管する部会です。

令和 ５・６年度ともに、第８期から引き続き「区の魅力の発掘・発信」を重点的に取り組む地域課題としました。令和５年度は、西区にあるさまざまな魅力を掘り起こし、親しみを持ってもらえるよう令和４年度に選定した「西区八景」を活用する事業としてフォトコンテストを実施しました。

令和６年度は、西区のさらなる魅力発掘を目指して第２回のフォトコンテストを実施したほか、さらに西区の素敵な風景や魅力的なスポットを巡るバスツアーも実施しました。

また、区の公共交通に関する調査・研究活動にも積極的に取り組みました。具体的には、委員全体を対象としたアンケートの実施、区の公共交通改善プランや区バス・住民バスに関する勉強会の実施などにより、公共交通の側面から見た区の魅力発信について考えを深めました。

エ 広報紙特別部会

広報紙特別部会は、西区自治協議会広報紙「西区を豊かに」の編集・発行を所管する部会です。

区自治協議会の活動を広く区民に周知し、認知度を上げる目的で、広報紙「西区を豊かに」を第９期に６回発行したほか、西区だよりで、区自治協議会特集を２回掲載いただきました。構成にあたっては、特集や連載企画を織り交ぜながら、多くの方に読んでもらえる紙面づくりを心掛けました。

ＳＮＳに広報紙の記事を掲載することで、紙媒体では情報が行き届かない方への情報発信につなげることができたほか、区民参加型の企画として、「西区八景クイズ」を実施したほか、クロスワードパズルを掲載し、回答の際にいただくアンケートでは、区自治協議会に対する多くの意見や感想を得ることができました。

今後も区自治協議会の認知度を高めるため、親しみやすい紙面づくりに一層努めていきます。

オ アートフェスティバル特別部会

アートフェスティバル特別部会は、西区アートフェスティバルの企画・実施を所管する部会です。

区内の文化風土を耕して区民の一体感を醸成するため、区内で音楽・芸能やアート表現に取り組む方々の発表の場として、西区アートフェスティバルを年１回開催しました。そして、区内の大学・小学校・福祉施設と連携し、アート作品展示・ステージ発表を実施して好評でした。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

３　おわりに

今期も各部会を中心に、様々な地域課題の解決に向けて取り組みました。事業の目的や対象をしっかりと見定め、各委員の専門分野を生かした視点で事業を展開したことで効果的かつ効率的に事業を実施することができました。

また、課題としておりました、本会での活発な議論も、「防災」という地域課題について部会の垣根を越えて議論することで、普段事業を共にしない委員同士での意見交換の機会を設けることにつながりました。来期も、部会と同様に本会でも活発な議論が行われることを期待します。

第１０期は、このような点を踏まえ、区民と市の「協働の要」として、活動の活性化がさらに図られることを願います。

令和５年度

令和6年3月31日

区自治協議会提案事業　事業評価書

西区自治協議会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	環境美化 【事業費予算　500　千円】
事業目的・概要	ごみ拾いSNS等を活用し、ごみを拾う人を増やすことで、ごみを捨てる人の行動変容を引き起こし、ごみのない綺麗な西区を目指す。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	①団体向け事業「環境美化パートナー制度」 西区自治協が指定するごみの多い場所（重点ポイント）で清掃活動をしていただける団体を募集した。登録団体には環境美化パートナーとなってもらい、清掃活動を行って頂く代わりに、活動の様子を西区HP、自治協広報紙で紹介し、広報を行った。また、西区自治協で作成したのぼり旗・ごみ袋等を配布し、ごみ拾いの際に活用いただいた。 参加団体：23団体　　延べ参加人数：1，305名 ②個人向け事業「さぁチャレンジ！あなたもできます。＃西区をきれいに！！」 西区に在住・通勤通学している個人向けに、ごみ拾いSNSピリカ内でイベントを開催。西区内でごみ拾いを行い「＃にしくをきれいに」をつけて10回以上投稿しくれた方に賞品をプレゼントした。 参加者：45名　　投稿数：358件　　賞品受賞者：6名
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【成果】 　環境美化パートナー制度では、昨年度に引き続き、多くの団体・企業に参加していただいた。その活動を自治協が紹介・広報し、区民に認知してもらうことで、参加団体にとっても有益な取り組みとなった。 　個人向け事業については、SNSの特性を生かし、ごみ拾いの成果を世界中のユーザーと共有することで、ごみ拾いを気軽に、楽しみながら実施してもらうことができた。また、NHK新潟の番組コーナーに取り上げられたことや、参加希望者に対してSNSピリカの登録、投稿のやり方をレクチャーする機会を設けたことにより、参加者や投稿数の増加に繋がった。 　定期的にごみ拾いを実施したことで、そのエリアではポイ捨てが減少したとの声があったことから、事業目的はおおむね達成されたと考える。 【課題】 　環境美化活動に対する支援は、自治協提案事業終了後も継続して行う必要があると考え、次年度は継続できる仕組みづくりに取り組むことが必要と感じた。 　パートナー制度では、地域で活動するコミュニティ協議会や自治会・町内会の参加数が伸び悩んだため、多くの団体に参加してもらうために周知の方法に工夫が必要と感じた。
備考	

令和５年度

令和6年3月31日

区自治協議会提案事業　事業評価書

西区自治協議会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	支え合いの大切さ普及 【事業費予算　500　千円】
事業目的・概要	令和4年度に行った「支え合い」に関するアンケート調査結果から、中学生から50代までの現役世代において、支え合いの重要性は認識しているものの具体的に行動できていない人が多いことが分かった。この事業では、現役世代を中心として、支え合いに関する行動変容（＝普段から必要なときに能動的に支え合いを行うことができる）を促すためのきっかけづくりに取り組む。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	■「あいさつ運動」街頭キャンペーン 支え合いの行動を起こす際のきっかけとなる“他者への声掛け”を多くの人が自然に出来るようになるため、「毎月５のつく日はごあいさつDAY」をキャッチフレーズとした「あいさつ運動」を行った。 （1）日時／実施箇所 ①令和5年10月25日（水）7時～8時 ／ JR越後線 寺尾駅 ②令和5年11月15日（水）7時30分～8時30分 ／ JR越後線 小針駅、新潟大学前駅 ③令和5年12月5日（火） 7時～8時 ／ JR越後線 内野駅 （2）総動員数 77名（延べ）（①，②は水野西区長、③には中原市長が参加） （3）チラシ配布枚数 約1,800枚 （4）協力団体 五十嵐小学校区コミュニティ協議会、坂井輪中学校区まちづくり協議会、小針小学校区コミュニティ協議会、内野・五十嵐まちづくり協議会、コミュニティ中野小屋、西内野コミュニティ協議会、ほか。
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【地域課題の抽出方法とその解決策】 令和4年度事業で行ったアンケート調査やワークショップを踏まえ、支え合いの行動を起こせない人が数多くいる現役世代に向けて、行動変容のきっかけづくりとして「あいさつ運動」街頭キャンペーンに取り組むことにした。 【成果】 ・「あいさつ運動」のキャッチフレーズ「毎月５のつく日はごあいさつDAY」は、簡潔でわかりやすく、記憶に残りやすいため効果的な広報活動が実現できた。 ・キャンペーンの会場として、人が多く集まるJR越後線沿線駅を選定し、通勤通学の時間帯としたことで対象とする現役世代に効率的に情報を届けることができた。 ・広報媒体として、のぼり旗と名刺サイズのチラシを制作。のぼり旗は運動の目印として効果を発揮し、チラシは手に取りやすいサイズ感が功を奏し多くの方に届けることができた。また、意見や感想コメントを残すことが出来る2次元コードをチラシに表示したことで、双方向コミュニケーションの環境を整えることができた。 ・今回の街頭キャンペーンの実施に際し、コミュニティ協議会など、地域を超えた連携や協働が醸成された。 【課題】 ・「あいさつ運動」を一過性の取り組みではなく、地域に定着させるため、地域団体や事業者をどのように巻き込んでいくか。
備考	

令和５年度

令和6年3月31日

区自治協議会提案事業　事業評価書

西区自治協議会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	区の魅力発掘事業 【事業費予算　500　千円】
事業目的・概要	西区のさまざまな魅力を深掘りし、「風景」として区内外に発信することで、より多くの区民が西区を好きになって住み続けるとともに区外からの移住を増やすことを目指す。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	①西区八景の現地巡り 昨年度に選定した西区の代表的な魅力である「西区八景」について、八景の実態把握及び、今後の八景を活用した事業展開を見越して、部会委員による現地確認を実施した。 ②魅力発信フォトコンテスト「わたしの西区自慢　フォト＆エッセイ」 西区の魅力を区内外の人々に知ってもらうことを目的にフォトコンテストをインスタグラムを使って実施した。写真に加えて、選んだ理由、思い出、エピソード等も併せて募集し、より魅力に深みが増すような企画とした。 投稿数：92件 （入賞予定）　西区八景賞：8作品　　心に響いたで賞：19作品
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【成果】 　西区八景の現地巡りでは、実際に足を運ぶことで八景それぞれの魅力を再確認することができた。一方、見頃な季節や時間に合わせて赴く必要があることや、交通アクセス等の課題も認識することができた。 　フォトコンテストについては、募集期間が短かったこと、広報活動の検討に時間を要したことにより、当初は応募件数が伸び悩んだが、チラシやSNSでの周知により、最終的には多くの応募をいただき、西区の様々な魅力を区内外に発信することができた。 【課題】 　昨年度選定した西区八景を提案事業として有効的に活用しきれなかった。フォトコンテストの入賞作品の活用方法も含めて、次年度検討することとする。
備考	

令和５年度

令和6年3月31日

区自治協議会提案事業　事業評価書

西区自治協議会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	第１１回西区アートフェスティバル 【事業費予算 1,400　千円】
事業目的・概要	【目的】 ・西区にある郷土芸能などの良さを区民に広め、西区の良さを再認識してもらう。 ・西区でアートの表現活動に取り組んでいる団体等に発表の場を提供する。 ・大学などと連携を深め、学術・文化豊かな西区の魅力を発信する。 【概要】 ・西区自治協議会と新潟大学が共催で実施。 ・郷土芸能分野の団体を対象にした発表の場として「アートフェスティバル」を開催し、郷土芸能を通して区民の地域交流を深める。また、西区にちなんだ多様な「アート作品」展示を行う。
事業の実施実績（実施回数、参加者数など）	＜郷土芸能団体発表＞ 令和5年10月22日（日）13:00～16:00　黒埼市民会館 地域の6団体（うち1団体はビデオ放映）による踊りや太鼓などの郷土芸能が披露された。 ＜アート作品展示＞ 令和5年10月21日（土）13:00～17:00、10月22日（日）9:00～16:00　黒埼市民会館 【作品内容】 ①新潟大学工学部によるアート作品　②アール・ブリュット作品　③区内小学生の自由研究優秀作品　④新潟国際情報大学写真部作品 ＜来場者延べ人数＞：282人
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	◎アートフェスティバル 【地域課題の抽出とその解決策】 西区は坂井輪・西・黒埼地域の3地域で構成されているが、西区が一体となった文化活動を行うため、アートの表現活動に取り組んでいる方々に発表の場を創出し、大学等と連携を深め区民の一体感の醸成を図った。 【アンケート結果】 ◆調査方法：来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に回答。 ◆有効回答：179名（有効回答率63.5％） ➢「郷土芸能団体発表」はどうだったか ［とても良い…71.7%、まあまあ良い…20.0%、ふつう…8.3%、やや不満…0%、不満…0%］ ➢「アート作品展示」はどうだったか ［とても良い…71.3%、まあまあ良い…24.5%、ふつう…3.1%、やや不満…1.1%、不満…0%］ 【評価（成果）】 ・新潟大学工学部によるアート作品展示では、普段接することが少ない学生との交流ができて良かった、との感想を来場者の皆さんから多数いただいた。 ・来場者数は前年度と比較すると半分程度だったが、5年度は来場者数が目的ではなく、地域に伝わる郷土芸能を区民に知ってもらうことが目的だったので、その目的はある程度、達成できたのではないか。 ・学生と自治協委員が自ら企画し、受付などの運営も行い、様々な作品や体験コーナーで多くの方に楽しんでいただくことができた。 【課題】 ・5年度は郷土芸能にスポットをあてて開催したが、次年度以降は同じ内容での継続は難しいので、テーマを何にするかが問題。 ・5年度以上に、広く西区民からアートフェスティバルに興味・関心を抱いてもらえるような取り組みが重要である。
備考	

令和５年度

令和6年3月31日

区自治協議会提案事業　事業評価書

西区自治協議会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	地域の防災力向上 【事業費予算　300千円】
事業目的・概要	災害に対する区民の不安、防災・減災への疑問などを少しでも解消することで、いざという場面で区民が迅速に対応できること、命を守る行動がとれることを目指し、ワークショップや講演会を実施する。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	○防災講演会の開催 日時）令和5年11月18日（土）14時30分～ 講師）防災システム研究所　所長　山村　武彦　氏 テーマ）気候変動と防災の関係 大切な命を守るために 参加者）105名 ○防災ワークショップの開催 日時）令和5年12月27日（水）15時30分～ 講師）防災士　古俣　和博　氏 テーマ）豪雨災害に備える！西区版「アワタラ」を作成しよう！ 参加者）自治協委員 27名
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	■防災講演会 ○講演会の事後アンケートでは、全ての参加者が「非常によかった」「よかった」と評価するなど非常に満足度の高い事業となった。 ○近年増えつつある猛暑や豪雨など気候変動由来の災害をテーマに、発災前後の備えの重要性や地域の共助の大切さなどについて、実例を基に学ぶことが出来た。 ■防災ワークショップ ○災害時における避難行動を時系列で整理した「アワータイムライン（アワタラ）」の作成を通じ、自分自身の行動のみならず、家族や近所、職場、行政などの動きを把握することで、それぞれの環境下における発災前後の具体的な行動を認識することができた。 【総括】 ○令和6年1月1日に発生した能登半島地震を経て、これまで以上に地域住民の防災意識が高まりつつある中、地域防災力の向上に向けて、自治協議会として出来ることを再検討する必要がある。
備考	

※　令和６年度　西区事業評価書は令和７年３月中に確定

西蒲区自治協議会（第９期）を振り返って

西蒲区自治協議会会長　吉田　金豊

1. はじめに

20 名の新規委員を迎え新たな体制でスタートし、前期の委員の活動を引継ぎながら、地域課題の解決に向けた協議や様々な提案事業の実施に取り組んできました。

特に、今期は西蒲区自治協議会初となる３部会合同事業を行うなど、新たな取組にチャレンジしました。委員の皆さまも大変苦労されたかと思いますが、多様な方々が集う区自治協議会の力を集結し、当日悪天候に見舞われながらもなんとか無事に成功を収めることができました。

次期西蒲区自治協議会の更なる発展に向けて、第９期の成果や取組をここに報告いたします。

2. 取組内容・成果・課題

（３） 全体会について

ア 会議開催日時の検討

委員の皆さまに会議へ参加しやすい日時について意向調査を行いました。調査の結果、現行の平日午後の開催希望が最も多く、また委員の欠席者も少ない状況であったことから、調整会議で協議した結果、当面現行通りの開催とすることとしました。今後、欠席者が増えてきた場合は、再度開催日時について検討をすることとしました。

西蒲区自治協議会は議事、報告案件がない場合であっても、本会議や部会では議論すべき案件があるという認識のもと、毎月開催しました。

また、第 10 期委員への引継ぎのため、各常任部会で提案事業を通じた「効果」「残された課題」「今後の展望」について協議を行い、本会議において協議したい議題を設定し、本会議で諮りました。

このように部会から本会議へ議題を上げることで、他部会委員の視点からの意見を取り入れることができ、「部会・本会議の連携強化」と「西蒲区自治協議会全体の活性化」へ一定の効果があったのではないかと考えております。

今後は、より活発に意見交換ができるような仕組みづくりが必要であると考えております。

イ　委員研修の実施

令和５年度は、新潟お笑い集団ＮＡＭＡＲＡの江口代表を招き、「共生からはじまる持続可能な社会」をテーマに委員研修を開催しました。

にいがたパイロットクラブでの障がい者雇用の啓発や高齢者などを地域コミュニティで支え合う活動について理解を深めるとともに、自らの地域の課題について改めて見直し、今後の区自治協議会及び地域における活動へのヒントとしました。

令和６年度は、秋葉区自治協議会の会長を招き、「秋葉区自治協議会の取組」について講演いただき、委員研修を開催しました。

区自治協議会とコミュニティ協議会との更なる連携や、地域での活動、役割について改めて考え、今後の区自治協議会及び地域における活動へのヒントとしました。

本研修により、多様化する地域課題に取り組む区自治協議会委員としてのスキルアップにつながったと考えます。

ウ　議論しやすい環境づくり

活発な議論がしやすい環境づくりに向けて、試験的に取組を行いました。

１つ目は会議の座席レイアウトの変更です。いつもの指定席をやめ、受付で引いたくじの席へ座ることでランダムな席となり、また、レイアウトを工夫することで様々な委員とコミュニケーションが取れるようにしました。

２つ目は委員同士のコミュニケーションを更に図るため、会議の冒頭にコミュニケーションタイムを設けました。

これらの取組により、委員同士のコミュニケーションが深まることで、より議論がしやすい環境づくりができたのではないかと考えています。

（４）　部会・提案事業について

ア　総務部会

総務部会は、防犯・防災、教育、文化・スポーツ、公共交通など多岐にわたる分野を所管する部会です。

第９期では、防災と減災をテーマにした事業に取り組みました。

令和５年度は、新潟大学の卜部教授を招き、西蒲区の活断層について講演いただくとともに、防災演劇を通じて、防災意識の向上につながるイベントを開催しました。

令和６年度は、災害時における被害を最小限に抑える取組として、体験を交えて避難所運営について学ぶイベントを開催しました。

イ　保健福祉部会

保健福祉部会は、健康や福祉の充実のほか、生活環境など区民生活に関する分野を所管する部会です。

第９期では、第６期～第８期に引き続き、認知症に関する事業に取り組みました。

令和５年度は、信友直子氏を招き、自身が監督した認知症に関する映画の上映と老老介護の実態について講演いただきました。

また、支え合いの意識を醸成するために「3 のつく日は、支え合い DAY」として、支え合いと助け合いの大切さを区の広報媒体を活用して継続的な呼びかけを行いました。

令和６年度は、特に若い世代から認知症への理解を深めてもらうため、丹野智文氏を招き、自身の実体験に基づく若年性認知症の映画上映と、経験談について講演いただきました。

また、支え合いの大切さを広げることを目的に標語を募集し、たくさんの方より応募いただき、支え合いの大切さについて考えてもらうことができました。

ウ　まちづくり・産業部会

まちづくり・産業部会は、主に観光や商工業、農業に関する分野を所管する部会です。

第９期では、区内の各地域の共通の課題である、祭りなどの地域イベントにおける人手不足や担い手不足の問題の解消と、地域間の更なる相互交流を目的に「にしかん応援隊」というボランティア制度を創設しました。

令和５年度はモデル実施を行いながら制度設計し、令和６年度より本格実施しました。制度の PR 不足という課題があったため、制度の PR と併せて各地域のコミュニティ協議会が一堂に集い、各地域のイベント自慢を聞くことができるイベントを開催予定でしたが、大雪のため中止となってしまいました。そのため、内容を変更して別日に開催し、各地域が抱えている悩みを共有して、解決手段の一つとして「にしかん応援隊」制度を PR しました。

エ　広報部会

広報部会は、西蒲区自治協議会の活動・取組を区民に周知するための広報紙「じちきょう」を発行する活動をしています。

令和２年度の市政世論調査によれば、西蒲区内における区自治協議会の認知度が 58.5%と市内で最も高い結果になり、手に取って読んでもらえるような紙面づくりのために、写真を多く用いることや、紙面レイアウトの変更を行ってき

たことが、この結果につながったのではないかと考えます。

引き続き、西蒲区自治協議会を身近に感じていただけるような紙面作りを検討していくことが重要です。

オ　調整部会

西蒲区自治協議会の円滑な運営のために設置されている部会です。第９期においては、会議開催日時や委員研修の内容、提案事業などについて協議しました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3. おわりに

複雑化・多様化する地域課題に対応するために、多様な主体とのパートナーシップが重視されるなかで、区民等と市との「協働の要」である区自治協議会の役割はますます重要なものとなっています。

区自治協議会は、各地域のコミュニティ協議会をはじめ、多様な団体より委員が選出されています。委員は選出団体へしっかりと情報共有をしていただき、西蒲区が進むべき方向性を各団体と共有し連携しながら、西蒲区のより一層の発展に向けてみんなで取り組んでいく必要があります。

そのためにも、時代の変化に対応しながら、区自治協議会の役割や議論活性化の環境づくりなどを委員一人ひとりが考え続け、西蒲区の発展に向けて議論することが大切です。

一人ひとりが委員としてしっかりと自覚を持ち、地域課題の解決に向け、活発な議論を展開していくことができる第 10 期西蒲区自治協議会となることを期待しています。

令和５年度

区自治協議会提案事業　事業評価書

西蒲区自治協議会（総務部会）

区　分	内　　容
テーマ・事業名	住みよい・豊かな・活力あるまちづくり 【事業費予算　1,000千円】
事業目的・概要	【目的】 「観光とスポーツ・レクリエーションのまち」「人の和でつながる安心・安全なあたたかいまち」を目指すために、総務部会が所管する分野（防犯・防災、公共交通、教育、文化、スポーツなど）の調査研究等を行い、地域課題の解決に向けた取り組みを進めます。 【概要】 講演会及び防災演劇等を通じて、今すぐに始められる防災を学び、防災に対する意識を高める。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	**事　業　名**　「演劇で学ぼう　大切な命を守る　今すぐできる防災を」 **日　　時**　令和6年2月18日（日）午後2時～午後4時45分 **会　　場**　西川多目的ホール **内　　容**　**① 講演会「西蒲区の活断層について」** 講師：新潟大学　災害・復興科学研究所　教授　卜部厚志　氏 **② 防災演劇「Be prepared～大切な人のために出来ること～** 原作：防災意識向上プロジェクト 出演：劇団KURITAカンパニー **③ アフタートーク「今すぐできる防災について」** 出演：新潟大学　災害・復興科学研究所　教授　卜部厚志　氏 日本防災士会　新潟県支部　事務局長　成川一正　氏 防災演劇出演者　荒井和真　氏 西蒲区自治協議会　総務部会　柳原大輝　委員 西蒲区自治協議会　総務部会　田中久美子　委員 **④ 質疑応答（自由参加）** 講師：新潟大学　災害・復興科学研究所　教授　卜部厚志　氏 日本防災士会　新潟県支部　事務局長　成川一正　氏 **対　　象**　どなたでも **参 加 者**　299名 【アンケート結果】 提出数：272件（提出率：90%） ・長岡平野西縁断層帯の話など、今まで自分事としてとらえていなかったのでとても参考になった。 ・液状化の話が非常にわかりやすかった。 ・防災演劇は臨場感があって、時間の流れに沿って避難所の開設対応などを知れて身にしみて理解ができた。 ・アフタートークの「備えた分しか使えない」という言葉が印象に残った。
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【成果】 ・10代～70代以上の幅広い参加があり、多くの世代に防災を学んでいただけた。 ・話を聞くのではなく、避難所運営や笛を使用して助けを求めるシーンなど、演劇を通して伝えることでよりリアルに感じていただくことができた。 ・地震に関する話題はタイムリーであり、来場者から期待された事業であった。 ・アンケートの結果から、講演会および防災演劇について「良かった」と答える人が8割を超えており、満足度の高い事業であった。 【課題】 ・防災訓練や避難所運営にどのようにして結び付けていくか。
備考	

令和５年度

区自治協議会提案事業　事業評価書

西蒲区自治協議会（保健福祉部会）

区　分	内　　容
テーマ・事業名	支え合いと助け合いの気持ちにあふれるまちづくり 【事業費予算　1,000千円】
事業目的・概要	【目的】 支え合い・助け合う心を育成するための啓発事業などを行い、「人の和でつながる安心・安全なあたたかいまち」を目指します。 【概要】 西蒲区は、新潟市で一番高い高齢化率となっており、今後、認知症患者が増加されることが予想される。認知症患者と介護する家族が、共に支え合い、住み慣れた郷土で安心して暮らし続けるヒントをつかんでもらうための映画上映会と講演会を開催する。また、支え合いと助け合いの啓発事業などを継続的に行っていく。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	○信友直子さん講演会＆映画上映会 事業概要は以下のとおり ■日時：令和6年2月24日（土）　■会場：巻文化会館 ■上映映画名：ぼけますから、よろしくお願いします。（第1部） ■講師：ドキュメンタリー映画監督　信友直子（上映映画の監督） ■講演会演題：認知症の母が命懸けで教えてくれたこと ■定員：400名（当日参加者589名）※定員枠を拡充した 【アンケート結果】 1．調査方法：来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に無記名回答。 2．回答：546名（有効回答率92.7%） （1）映画内容の感想について（とても良かった・良かった）・・・87．4% （2）講演内容の感想について（とても良かった・良かった）・・・98．2% 【主な感想】 ・老老介護の実体験が聴けた。近所付き合い・介護保険の活用について学べた。 ・老老介護の現実や認知症患者の辛さを見る事ができた。
	○支え合いの意識醸成事業（3のつく日は、支え合いDAY） 【事業概要】 西蒲区が支え合いと助け合いにあふれるまちになることを願い「3のつく日は、支え合いDAY」とし、支え合いと助け合いの大切さを継続的に呼びかける。 【事業内容】 ・区役所の広報媒体を活用し、委員アイデアによる啓発メッセージを継続掲載 ・区役所だよりを活用し、地域のボランティア団体や、地域の支え合い活動を連載掲載 ・講演会のアンケートに支え合いに関する質問項目を追加
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【効果】 ①信友直子さん講演会＆映画上映会 ・認知症患者を実際に介護している映像は、普段見ることができないものであったため、実際の映像と体験談を一緒に見聞きすることができた。 ②支え合いの意識醸成事業（3のつく日は、支え合いDAY） ・身近なところでの支え合いの重要性を訴えるメッセージを発信することができた。 【課題】 ・支え合いの意識醸成事業は、始まったばかりで、まだインパクトに欠けていた。 ・これから家族の介護を背負う若年層への意識啓発を図る必要がある。 ・講演会の参加者のうち60歳以上が8割以上で、男女別では女性が8割だった。若年層や男性を取り込む手法を検討する必要がある。 【今後に向けて】 ・支え合いの意識醸成事業のキャンペーン期間を設ける。 ・近所付き合いなど、地域内で気軽に声を掛け合う環境作りについて意見交換を行う。 ・若年層から支え合いの重要性を認識してもらう方策について検討を行う。 ・「3のつく日は、支え合いDAY」を継続的に掲載しないと住民意識は薄れてしまうかもしれないので、引き続き啓発活動を行っていく。
備考	

令和５年度

区自治協議会提案事業　事業評価書

西蒲区自治協議会（まちづくり・産業部会）

区　分	内　　容
テーマ・事業名	西蒲区お宝発信事業 【事業費予算　1,000千円】
事業目的・概要	【目的】 「魅力あふれる農水産物を供給するまち」「歴史と文化が生き続けるまち」「人が行き交い、にぎわいと活力があふれるまち」を目指すために、まちづくり・産業部会が所管する分野（まちづくり、農業、商工業、観光など）の調査研究等を行い、地域課題の解決に向けた取り組みを進めます。 【概要】 地域のイベントのお手伝い（サポート）をするボランティアスタッフを募集し、人手不足で困っている地域団体（コミュニティ協議会等）とをつなぎ、相互交流を図る制度「にしかん応援隊」を創設。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	○「にしかん応援隊」 ＜制度概要＞ 応援隊（ボランティア）の募集情報を「にしかん応援隊」LINE公式アカウント及び市のホームページに掲載することにより、地域のイベントをお手伝いしたい人（応援隊）と、人手不足で困っている地域団体（受入団体）とをマッチングさせる。 ＜対象＞ 【応援隊】地域内外のイベントに関わってみたい人、お手伝いしたい人（市民） 【受入団体】地域のイベントで人手不足で困っている団体（コミュニティ協議会等の地域団体） ＜モデル実施＞※令和6年度から本格実施 ・12月3日（日）「かもん！カモねぎまつり」（潟東） ・まちづくり・産業部会委員5名が応援隊として参加 ・アンケートの結果、応援隊、受入団体ともに満足度は高かった一方で、募集や受入側の課題が見えたため、それを踏まえて制度やルール等の修正を行った。
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	＜今後、期待される効果＞ ・応援隊のマッチングにより、受入団体の人手不足の解消。 ・応援隊員としてイベントに関わったことをきっかけとして、地域内外に対しての理解や交流が深まり、地域への愛着や相互交流が生まれる。 ・地域を超えて他団体との交流が深まることで、困ったときに相互協力しやすい風土ができる。 ＜今後の方向性＞ ・制度が活用されるよう、周知が必要。 　⇒部会委員はイベントや会議の際など、機会を捉えて周知を行う。 ・部会委員及び自治協議会委員は周知も兼ねて積極的に本制度に参加する。 ・制度を運用していく中で、活用状況を踏まえながら適宜見直しを行っていく。
備考	

※　令和６年度　西蒲区事業評価書は令和７年３月中に確定

区自治協議会（第９期）を振り返って
～令和６年能登半島地震を踏まえた防災意識の向上～

第９期区自治協議会会長会議

最後に、令和６年能登半島地震を踏まえ、区自治協議会として行った取組と課題について、以下のとおりまとめます。

巻末資料１　令和６年度　新潟市区自治協議会　全体委員研修会の記録・・・Ｐ８１

【目的】：令和６年能登半島地震を経て、災害に対する日頃の備えや発災時の迅速な判断と行動の重要性を改めて認識したことから、防災をテーマに、区民の防災意識の更なる向上を目的に研修会を実施。
（本記録は市危機管理防災局にも共有）

【概要】：「地震」に関する下記テーマで実施した意見交換の内容をまとめたもの。
（テーマ：防災訓練、地域共助、避難行動、避難所運営、復旧時の取組）

巻末資料２　地域広聴会における主な意見・要望について・・・・・・・・・Ｐ９３

【目的】：令和６年能登半島地震における初期対応について、課題や原因の整理、対応策検討の検証にあたり、各区地域団体の意見を参考とさせていただくため、市危機管理防災局主催で実施。

【概要】：地域広聴会において、区自治協議会委員、地域コミュニティ協議会会長等、防災士よりいただいた下記事項に関する主な意見・要望をまとめたもの。
（情報の受信、避難行動、避難所運営、その他）

参考：区自治協議会などから挙がった意見に対する市の対応方針は、「令和６年能登半島地震　災害初期対応検証報告書」としてまとめられています。
※下記リンクまたは二次元コードからご確認いただけます
https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/bosai/bosai_taisaku/index_koujo/kikitaisaku20241030.html
☞　市ホームページより「災害初期対応検証報告書」で検索

巻末資料１

令和６年度　新潟市区自治協議会
全 体 委 員 研 修 会 の 記 録

新潟市市民生活部
市 民 協 働 課

目　次

１　開催概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８３

２　分科会（意見交換）における主な意見・・・・・・・・・・・・・・・・・８５

３　研修後アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９２

1　開催概要

【目　的】

令和６年能登半島地震を経て、災害に対する日頃の備えや発災時の迅速な判断と行動の重要性を改めて認識したことから、防災をテーマに「市民と市との協働の要」である区自治協議会が、地域の代表として、区民の防災意識の更なる向上を目的に実施

【概　要】

〇開催日時・会場

・日　時　：令和６年５月１０日（金）　１３：３０　～　１６：１５

・会　場　：東区プラザ　（新潟市東区下木戸１丁目４番１号）

〇プログラム

１　事例発表

・代表区より、防災に関する取組事例を発表

区	発表事例（第９期自治協提案事業）	発表者
秋葉区	防災講演会 「土砂災害の現状と自然災害に対する自治会長の心構え」	青木　貞義　様
西　区	自然災害に備える！西区版アワータイムラインの作成	古俣　和博　様
西蒲区	西蒲区防災啓発事業（防災講演会・防災演劇）	吉田　金豊　様

秋葉区「防災講演会」

西区「アワータイムラインの作成」

西蒲区「防災演劇」

２　分科会（意見交換）

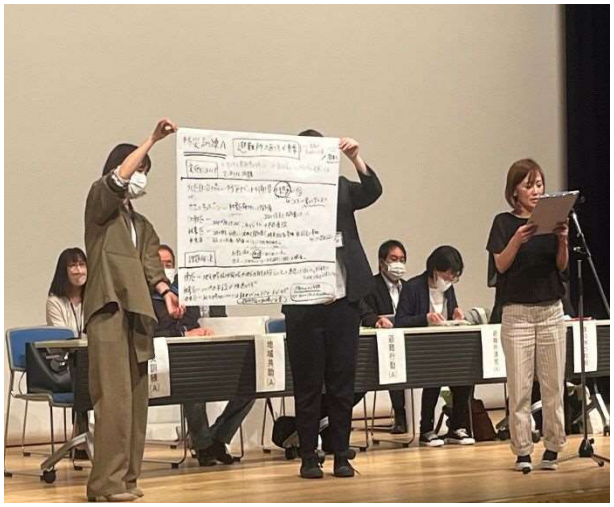
・令和６年能登半島地震を受けて、「地震」に関する各テーマで意見交換を実施

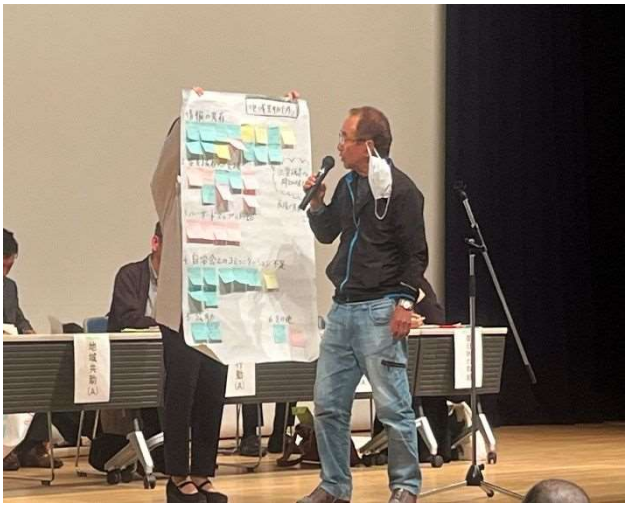
・多様な意見を共有し、今後の活動の参考としていただくことを目的に実施

分科会テーマ（グループ）		話題（例）
平時	防災訓練 （A・B）	・多世代から参加してもらうための工夫 ・実効性を高めるための工夫　など
	地域共助 （A・B・C）	・避難行動要支援者（高齢者、障がい者など）との関係づくり ・地域で行う備え、個人で行う備え（備蓄等） ・津波ハザードマップの活用や地域における伝達方法　など
発災時	避難行動 （A・B）	・避難の判断基準や必要な行動 ・携行品や避難手段（徒歩）における注意点　など
	避難所運営 （A・B・C）	・避難所の運営方法 ・要配慮者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦）への支援 ・長期化した際に必要となる対応　など
復旧時	復旧時の取組	・災害による地域課題や住民のニーズ把握 ・市民と行政をつなぐ「要」としての役割　など

３　全体共有

・代表分科会（各テーマから１分科会）より、意見交換の概要を全体に共有





○参加者

1　当日参加者　１２８名

（区別内訳）　（人）

北　区	東　区	中央区	江南区	秋葉区	南　区	西　区	西蒲区	合　計
16（30）	21(32)	21(32)	18(30)	14(29)	10(30)	11(36)	17(30)	128(249)

※(　)内は R6.5.1 時点の各区自治協議会委員数

2　分科会参加者内訳

（区別内訳）　（人）

分科会テーマ	区								合計
	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	
防災訓練	1	2	3	4	4	2	5	4	25
地域共助	5	9	1	5	4	1	3	5	33
避難行動	5	4	5	1	2	1	2	2	22
避難所運営	4	2	9	7	3	6	1	3	35
復旧時の取組	1	4	3	1	1	0	0	3	13
合計	16	21	21	18	14	10	11	17	128

２　分科会（意見交換）における主な意見

各分科会における意見交換の内容について、模造紙や書記係のメモをもとに、主な意見を掲載します。※内容については当課の方で類似意見の集約・要約をしています

【防災訓練（A）】

キーワード	主な意見
課題	● そもそも防災訓練の実施率が低い ● 学校単位では行っているが、自治会ではノウハウが無く実施が難しい ● 内容のマンネリ化 ● 避難所にキーBOX が設置されるため、誰でもすぐに開錠できるように備えておくなど、避難所開設の訓練が必要
各区の取組状況	＜北区＞ ● 令和３・４年度に自治協提案事業で防災イベント「目指せ防災力向上！」を開催し、子どもが楽しく学べる体験が高評価だった ＜東区＞ ● 昨年「防災・安心安全フェスタ」を開催し、災害救助車の展示やちびっこ消防隊（子ども用防火衣をつけての写真撮影）など、子どもに少しでも興味をもってもらうことが重要 ＜中央区＞ ● 毎年１０・１１月頃に開催した経験が活かされ、能登半島地震の際はお年寄りがスムーズに避難することができた

キーワード	主な意見
各区の取組状況	＜江南区＞ ● コロナが収束してきたので、これからイベントを開催予定 ＜秋葉区＞ ● 令和３年に荻川で、おもちゃの物々交換（かえっこ）と、楽しくアレンジした防災プログラムを組み合わせた防災イベント「イザ！カエルキャラバン」を実施した。防災訓練に「体験する」楽しさを加え、地域の防災力を向上させていくことが大切 ＜西区＞ ２２自治会の３分の１に出張講座を開催
課題解決に向けた方向性	● 避難所開設の訓練や避難所のあり方検討が必要 ● ハザードマップの確認等の自助の意識向上 ● 子ども連れの家族が防災訓練やイベントに参加することが大事 ● 子どもの参加については、親世代へのアプローチが鍵となる

【防災訓練（B）】

キーワード	主な意見
能登半島地震の振り返り	● 避難訓練と実際では全然違う。今回は津波警報が出たので、避難者が一斉に上階へ避難し、決めておいた区画も全然守られていなかった ● 受付カードも作っている余裕がなかった ● 暖房や具合の悪い人の対応など避難訓練の際に想定されていないことが多かった
避難訓練	● どんな防災なのか？具体的な災害を想定してより実際に見合った訓練にすることが必要 ● 地盤が強いため関心が低いのか、訓練に人が集まらない ● 自治会やコミ協ごとに意識が違い、訓練にも温度差が出ている ● 何を想定した訓練なのかよく分からないというのが大問題
地域を知る	● どのような災害が想定されるのか、まずは自分の住む地域を知ることが大切
今後の訓練に想定すべきこと	● 日中、小中学生が学校にいる間に地震が起こった場合、子どもたち自身で身を守れるよう訓練する必要がある。誰がリーダーとして率先していくのか考える機会も必要 ● 部分的ではなく初動対応から長期化した場合の避難所運営まで一貫した訓練を行い、避難者が誰でも対応できるようにしておく ● 小学校では年に４回様々なシチュエーションで訓練を実施しているため意識は高い。どのように親世代を巻き込んでいくかが重要 ● 避難行動要支援者に関する情報共有や避難時の対応方法を考える ● 避難訓練以前に、自分の地域で起こりえる災害の想定を明確にする

【地域共助（A）】

キーワード	主な意見
情報の共有	● 自治会・町内会の行事に参加し、情報を共有する ● 近所で何かあった時にお互いに支え合える関係をつくる ● 地域の方々と顔の見える付き合い、声を掛け合える距離感を心掛けることが共助につながる ● 回覧板等での周知が大切
要支援者への支援	● 高齢者・障がい者への支援を地域に意識づける ● 避難行動要支援者の確認 ● 引きこもりの若年層はどこに避難するべきなのか ● 障がいの特性に応じた対応を心掛ける ● 緊急避難に対する地域住民の心構えが不足している ● 緊急時における要支援者への周知が重要
ハザードマップの周知	● 緊急避難場所に関するマニュアルに不備がある ● ハザードマップの活用方法が地域住民に知られていない ● 避難する合図やレベル感、どの程度ならどこに逃げるべきなのか判断基準を確認するべき
自治会とのコミュニケーション不足	● 日頃からボランティア活動などに積極的に参加する ● 避難訓練に参加し、役割分担や自分達にできることを確認する ● 近所の付き合いがないことが原因 ● 日頃からの多世代交流が大切 ● 相談できる関係性をつくることが大切 ● 役割分担の徹底、一人に集中させない
公助	● 自治会、コミ協、包括など地域の各機関とつながりを深める
備蓄	● 自治会で多少の備蓄品の用意が必要 ● 必要な備蓄品は各家庭で用意しておくことが重要

【地域共助（B）】

キーワード	主な意見
地域の備え	● ハザードマップを自治会回覧に ● 子ども向けの防災訓練実施 ● 要支援者を名簿等で把握 ● 学校の防災訓練に地域（自治会）が参加する
個人の備え	● 避難所の備蓄物資に頼るのではなく、必要な物資は個人で用意する ● 地域の祭りや親睦会などに参加し、顔の見える関係性をつくる ● 避難所運営訓練の継続「これをやればよい」という考え方を改善する

【地域共助（C）】

キーワード	主な意見
コミュニティ（地域力）	● 日常的な交流と関係づくりが大事 ● 日頃のつながりの中でコミュニティをまとめていく人が必要 ● 自治協やコミ協がプラットフォームとして、地域のつながりを広げ、課題は各団体や地域に持ち帰り、地域力を高めていく
要支援者	● 要支援者と誰が一緒に行動するのかを考える ● 要支援者がどのようなサポートをしてほしいのか把握しておく ● 要支援者・要配慮者の状況に応じた避難場所を考える
備え	● 自然災害の種別により、事前に避難行動をハザードマップから想定し、地域で共有しておく ● 地域と子ども達の普段からの交流 ● 学校での避難訓練の見直し ● 個人情報保護の壁があり、要支援者に関する情報共有が難しい ● 地域の行事を積極的に開催し、顔の見える関係性をつくる
防災教育	● 防災手帳、防災ゲーム、キャンプなど遊びながら防災知識を学べるような多世代へのアプローチが必要

【避難行動（A）】

キーワード	主な意見
能登半島地震の振り返り	● 地域の中でも危機感に差があり、避難しない方が一定数いる ● 近くに丈夫な建物がなく、手狭な避難場所に人が殺到した ● そもそも避難場所が分からない ● 津波警報発表時、自治会にどのように働きかければよいのか迷った ● 近所の老人憩の家を緊急避難場所として開設した ● 年配者は動きたくない人が多く、避難所への誘導に手を焼いた ● 町内の老人世帯を中心に声掛けを手分けして行った ● 車で避難してくる人が多かった ● 地域によって津波の被害の有無が異なるのに、同じ情報で一律に避難してしまうことが課題 ● テレビの地震情報に困った。誰に対して発信しているのか分からず、避難すべきか不安になった
今後の課題	● 地域の指定避難場所に囚われずに逃げる ● 避難場所の収容能力に地域差がある。代替地を検討してほしい ● マンションなどへの近隣住民の受入 ● まずはハザードマップを見るなど避難行動の必要性を冷静に判断する ● 要支援者への対応については取組の対策が不十分 ● 避難訓練において本番の意識が低い

【避難行動（B）】

キーワード	主な意見
能登半島地震の振り返り	● どこに避難すればよいか分からなかった ● ハザードマップの見方が分からず、実際の行動が分からない ● 元日だったため家族の安否確認がスムーズにできた ● マンションへ避難した人もいた。津波の場合は、近隣のマンションやビルに逃げ込むことも１つの選択肢だと思った ● 要支援者への対応ができていなかった ● いつまで避難所にいるべきなのか情報が入ってこない ● 避難所と津波の際の避難場所（高い所）のどちらに避難すればよいのか分からなかった
判断・情報	● 新潟市公式 LINE が含む情報が現実の地名に当てはまらない ● 災害の種別によってどこが避難所に指定されているのか分からない ● 避難所の開設基準が分からない

【避難所運営（A）】

キーワード	主な意見
避難所運営	● 避難所運営の事前訓練が必要 ● 津波予想に基づく避難所運営は難しい ● 避難所運営方法について、今までの組織体制でよかったのか検証報告していただきたい ● 要支援者に対して情報共有ができない。 ● 要支援者や要配慮者向けのスペース確保が必要 ● 防災士を育成して一人でも多く避難所運営のリーダー格を増やす
避難場所	● 津波の時の避難場所が分からない ● 避難所、一次避難所、津波避難ビルの違いが分からない ● 海抜０m地帯の地域では、体育館が使えなくなるため、今後の水害に備えて避難先を検討すべき

【避難所運営（B）】

キーワード	主な意見
避難所の開閉	● 学校が避難所に指定されている場合は誰が開けるのか ● 避難所を開設する基準が複雑で分からない ● 避難所を閉めるタイミングは誰がどのような基準で決めるのか
避難所運営委員	● 避難所運営委員には、要支援者、子育て世代の女性、高齢者などから幅広く参加してもらっているのか ● 避難所運営委員の立ち位置をはっきりさせてほしい ● インセンティブをつけて立ち上げ指導を強化する必要がある
避難所運営	● 避難者カードは初動では間に合わず機能しない ● 避難者の帰宅は誰が判断するのか ● 障がい者や高齢者が階段を上る避難方法は今後の課題 ● 備蓄物資が１階の体育館にあることは問題だと思う ● 学校関係者が来ないと教務室を開けることができないため、体調不良者が出た際に保健室を使用できない
能登半島地震の振り返り	● 市職員が来てくれなかったため、運営方法が分からなかった ● 市職員が来なかったため備蓄の開封を迷い、毛布や水の配布が遅れた ● 避難所（小学校）の設備が不十分で冬だと寒さで体調不良になる ● 避難所内で家族とはぐれてしまった高齢者がいた ● 津波警報が出ていたため、帰宅を勧めることができず対応に困った ● 足の悪い高齢者を乗せた車が避難所の入口付近で停車した際に、他の避難者から怒鳴られていた。車で避難所まで移動することは良くないことなのか疑問に思った

【避難所運営（C）】

キーワード	主な意見
能登半島地震の振り返り	● 避難所に土足で入ってよいのか迷っている人がいた ● 学校関係者が来ないと設備の使い方が分からない ● 一時的に避難が殺到して人数把握ができなかった ● 避難者カードの作成はできないと思う ● 備蓄が圧倒的に足りない（食料、女性用品、赤ちゃん、介護）
避難所の中での課題	● 防災士の人がいるとよい ● 情報伝達機器の配備が必要 ● 学校の管理者が到着しなくても運営できるように訓練しておくべき ● 中高生や若い人の力を活用したい ● 情報収集のために避難所内に掲示板を早い段階で設置するべき ● 授乳室の確保 ● 動物（ペット）の避難場所の確保 ● 要配慮者や女性が安心して避難できる仕組みを避難所につくる ● トイレ問題、セクハラ、盗難対策をどのようにしていくか
避難所の外での課題	● 避難所運営は市役所がやるものだと思っている人が多い ● 要支援者の情報把握 ● 避難所運営委員を各自治会で３～５名選任しておくことが必要 ● 連絡網を作成しグループを作る ● 避難所の場所が周知されていない。防災の取組をしていない地域もあるため、取組を広めることも重要
行政の役割	● 防災教育の推進 ● 行政と民間の役割分担 ● 避難所の備蓄品の情報確認 ● 福祉避難所が少ない

【復旧時の取組】

キーワード	主な意見
災害による地域課題や住民ニーズ	● 個々の生活を復旧させていくことが、地域の復旧につながる ● 公益サービス、学校、病院などライフラインの復旧が進まないと家族の復旧が始まらない ● 液状化の地盤復旧は地域全体で取り組む必要がある
情報共有	● 国や県、市の補助金など復旧に向けた支援策を知らないことが不安につながるため、復旧時において情報の取得と共有は大切
心のケア	● 被災したことで前向きな気持ちになれないと思ってしまう ● 住民のつながりを通じて被災者の心をケア ● 地域の支え合いセンターの活用、推進員の配置
市民と行政をつなぐ「要」としての役割	● 復旧時の地域をまとめていくリーダーが重要 ● 地域のリーダーをどのように育成していくかが課題

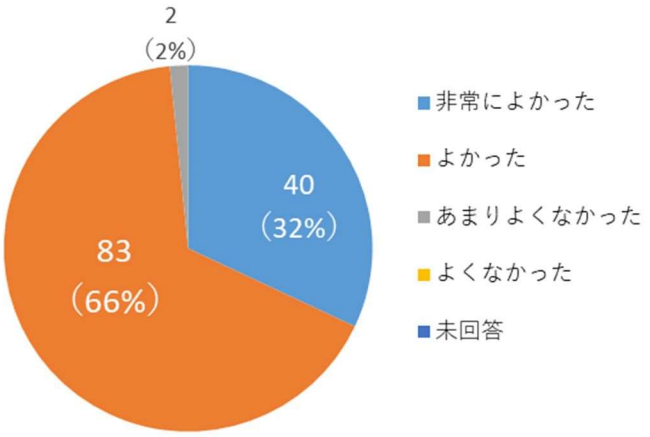
３　研修後アンケート結果

回収率：98%（回答者数 125 名）

本日の研修会の内容はいかがでしたか？

約９割が「非常によかった」又は「よかった」と回答

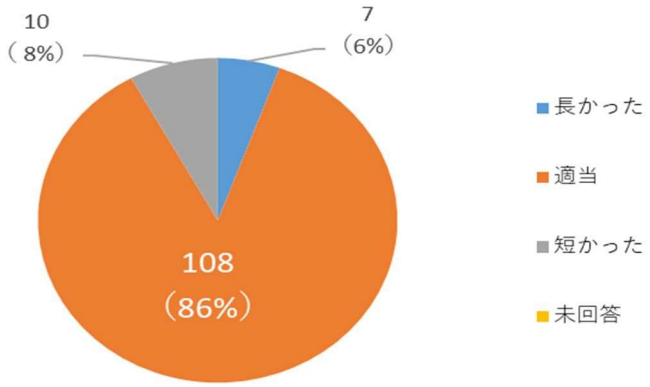
- 非常によかった　40 件
- よかった　83 件
- あまりよくなかった　2 件
- よくなかった　0件
- 未回答　0 件



研修会の所要時間はいかがでしたか？

約８割が「適当」と回答

- 長かった　7件
- 適当　１０８件
- 短かった　１０件
- 未回答　0 件



時間を短縮してもよいと思うプログラムを１つ選択してください。
（研修会の所要時間について、「長かった」と回答した方のみ）

- 事例発表　1 件
- 分科会　4件
- 全体共有　1 件
- 未回答　1 件

「事例発表」を選択した主な理由

- 資料を読んで大体理解できる
- 分科会の時間が少なすぎると感じた

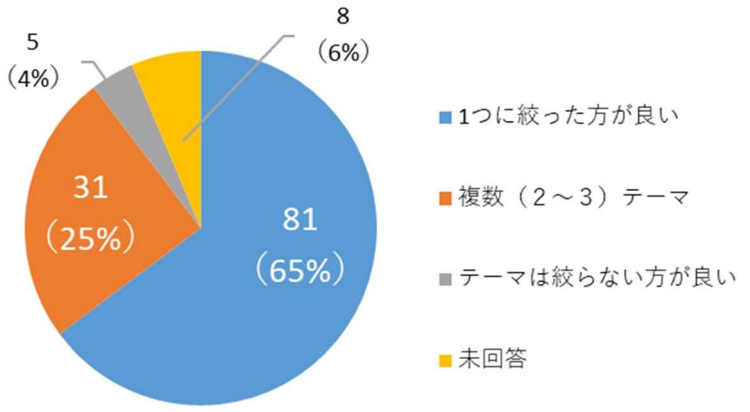
「分科会」を選択した主な理由

- 意見が早々に活発に出たので、もう少し短くてもよい
- 建設的な話し合いや新しいものの見方を期待していたが、愚痴や若い人（３０～５０代）への不満が多かった
- 何について話をするのか絞るべき

今回は防災にテーマを絞って実施しましたが、テーマ設定についてはいかがでしたか？

- １つに絞った方がよい　８１件
- 複数（２～３テーマ）　３１件
- 絞らない方がよい　５件
- 未回答　８件

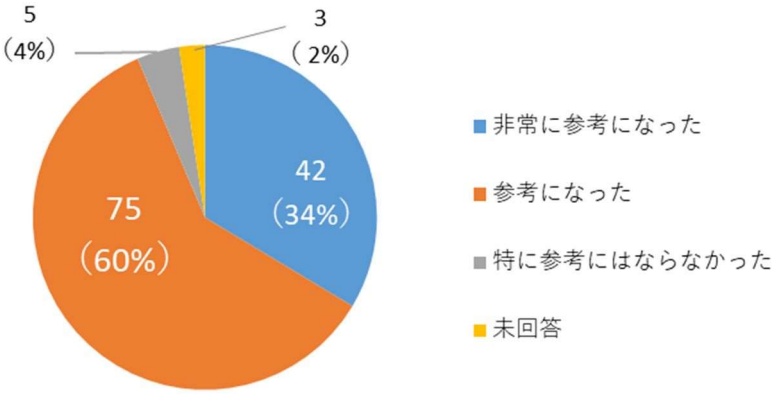
約６割が「１つに絞った方がよい」と回答



事例発表や分科会の内容は、ご自身の区にとって参考になりましたか？

- 非常に参考になった　４２件
- 参考になった　７５件
- 特に参考にはならなかった　５件
- 未回答　３件

約９割が「非常に参考になった」又は「参考になった」と回答



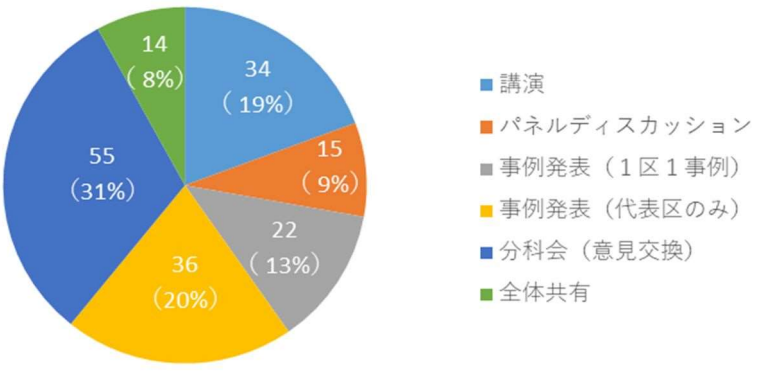
次年度の研修会はどのようなプログラムが必要だと思いますか？（第２希望まで回答）

- 講演　３４件
- パネルディスカッション　１５件
- 事例発表（１区１事例）　２２件
- 事例発表（代表区のみ）　３６件
- 分科会（意見交換）　５５件
- 全体共有　１４件
- その他　０件

※上記の回答件数は、第１希望と第２希望の合計値

第１希望の回答数

分科会（意見交換）：２６件	講演：２１件
事例発表（代表区のみ）：１９件	
事例発表（１区１事例）：１６件	
パネルディスカッション：　７件	全体共有：１件



次回の研修会でテーマを設定する場合、取り扱ってほしいテーマの番号を第３希望までご回答ください。（下記の回答件数は、第１希望～第３希望までの合計値）

	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	区名未記入	合計
防犯	1	2	1	1	1	0	0	0	0	6
防災	8	4	4	9	6	3	3	4	0	41
交通安全	0	2	0	0	0	0	0	1	0	3
高齢者支援	5	9	3	3	3	1	3	3	0	30
子育て教育	5	5	2	3	4	1	2	7	1	30
環境	1	2	2	3	1	2	1	1	0	13
商工産業	0	1	0	4	0	1	0	0	0	6
地域交通	3	3	5	8	6	2	2	1	1	31
賑わい創出	3	3	3	5	2	3	1	3	0	23
魅力発掘・発信	6	5	1	8	1	4	2	2	0	29
空き家	2	7	2	6	4	2	4	6	1	34
文化活動	0	3	0	1	2	0	2	1	0	9
スポーツ活動	1	0	0	0	1	0	0	2	0	4
移住促進	1	2	1	0	2	1	1	2	0	10
その他	1	0	1	1	0	1	0	1	0	5

【その他の内容】
- 部活動の地域移行
- 自治会内にある集合住宅居住者とのコミュニティのあり方

その他、研修会に関するご意見がありましたらご記入ください。

【主な意見】

- 元日の地震以降、防災の重要性を感じています。「自助」をもっと高め、近所の方とつながりを持ち、日々、防災意識を高めていきたいと思った。
- 能登半島地震の発生により避難所が開設されたことで、問題点が見えたこともあり、活発な意見交換ができた。
- 他区の活動の様子や内容を知ることができて参考になった。
- 防災士として若い女性委員２人が登壇していたことが刺激になりました。
- 分科会では他区の委員と交流できて良かった。
- 分科会での意見交換は活発でとても良かったが、全体共有の発表がグループＡのみだったので、まとめが弱かった。
- 時間配分を考えて議論をコントロールできるよう、分科会の司会等の役割は事前に決めて打ち合わせした方が良いと思う。
- 分科会や全体共有で話し過ぎる人が多いため、タイムキーパーが必要。
- 分科会はそれぞれが好きなことを話していただけで、もう少しテーマを絞るとよかったのでは。
- 区単位の取組事例だけでなく、自治会単位の取組の中から有効事例の発表があってもよい。
- 話し合いの目的を共有したうえで、分科会が進むとよいと思った。
- 全体共有の付箋が見えない。

巻末資料２

地域広聴会における主な意見・要望について

■開催期間　令和6年7月31 日(水)～8月30日(金)

■参加人数　321名(自治協委員:181名、コミ協会長等:119名、防災士:21名)

■意 見 数　196件(情報の受信 43／避 難 行 動 46／避難所運営 66／そ の 他 41)

■主な意見・要望

(1) 情報の受信について

【きめ細やかな情報発信】
・テレビではすぐに逃げてと言うばかりだったことから、避難指示の対象地域をわかりやすく示すなど、きめ細かい情報発信が必要である。
【各種情報の提供】
・津波の情報や市内の被害状況などを避難所に情報提供すべき。
【無線による細やかな情報発信および無線の増設】
・防災行政無線できめ細かい情報を発信するとともに、設置箇所を拡大して欲しい。
【多様な情報手段の確保】
・高齢者など、情報弱者も情報が受信できるよう、受け手に合わせた情報発信をして欲しい。

(2) 避難行動について

【ハザードマップの周知】
・避難の必要がない人が多く避難していた。ハザードマップをわかりやすく周知する必要がある。
【徒歩による避難の徹底】
・自家用車での避難が多く、渋滞が生じていたため、徒歩での避難を徹底するとともに、車で避難してもいい場合を明確にすべき。
【要配慮者の避難体制の構築】
・高齢者などの要配慮者の避難について、地域で体制ができていない。
【避難所外における避難】
・多くの住民が病院などの避難所以外の場所に避難したが、一時避難のため、その後の流れの確立を。

(3)避難所運営について

【避難所マニュアルの改正】
・避難所開設基準が複雑なため、わかりやすいマニュアルにして欲しい。
【避難所職員と地域の関係性の構築】
・避難所指名職員との連絡が不十分だった。日頃から顔の見える関係を築きたい。
・災害に備え、防災訓練を実施することが有効であることから、市からも実施を呼びかけて欲しい。
【備蓄物資の適切な配置】
・避難所の備蓄物資の種類や数量、置くスペースの問題について検討して欲しい。
【津波避難ビルの新規指定】
・津波避難ビルが不足しているので、新規指定の推進を。また、備蓄品も必要である。
【指定避難所の追加指定】
・現在の避難所では、全ての住民を収容できないことから、避難所の拡大が必要では。

(4)その他

【学校の統廃合と避難所機能の維持】
・学校が統廃合されても、避難所機能は確保して欲しい。